

防災気象情報の満足度に関する 調査報告書（本編）

平成17年7月

気象庁

調査の概要

1 - 1 . 調査の背景と目的

気象庁では、災害の軽減、交通の安全、地球環境の保全、国民生活や社会経済活動等に寄与すべく、わかりやすく質の高い気象情報(地震、火山、海洋等の情報を含む。)を作成・提供している。気象情報に関する改善成果の把握や改善方向の検討のため、気象情報ごとにその満足度(利用者の評価)・ニーズなどを測定・把握することとし、平成 13 年度に気象情報の満足度調査に着手した。

今回の調査では、気象庁の作成・提供している各種の気象情報のうち、気象災害、地震・津波・火山災害の軽減のために作成・提供している「防災気象情報」について、利用者である防災関係機関及び過去に顕著な自然災害を受けた地域の住民の満足度を把握することとした。

1 - 2 . 調査する情報の種類と調査の内容

今回の調査においては、気象庁が作成・提供する次の防災気象情報を対象とした。

大雨警報・注意報とこれらに関する情報(以下「大雨警報」ともいう。)

台風情報

地震情報

津波予報・情報

東海地震に関連する情報(以下「東海地震情報」ともいう。)

火山情報

調査内容は、これらの ~ の情報の種類ごとに総合的に評価した場合の満足度(総合満足度)、情報の種類ごとにそれぞれ設けた、情報の内容(精度、わかりやすさなど)、入手環境、気象台の対応等の評価項目についての満足度と重視度であり、併せて、これらの情報の認知・利用状況、気象庁への要望等を調査した。

さらに、気象統計情報に対する満足度、ニーズ等も調査した。

1 - 3 . 調査の対象

防災気象情報に対する満足度調査の対象は、防災関係機関と住民とした。

調査の対象機関(対象者)の区分は、次のとおり。

対象区分	防災関係機関					住民
	都道府県	市区町村	消防本部	ライフライン	報道	三条市、名古屋市、静岡市、高知市、浅間山周辺市町村(長野県・群馬県)

- ・ 都道府県(支庁を含む)とは、消防防災、河川管理等を担当する部局と都道府県の警察
- ・ 市区町村(東京都の特別区を含む)については、全国全て(平成 16 年 10 月 1 日現在)の自治体の防災を担当する部局
- ・ 消防本部は全国全ての消防本部
- ・ ライフラインは、電気・ガス・通信関係の指定公共機関その他の機関、鉄道をはじめとした交通機関
- ・ 報道は、主として新聞・テレビ・ラジオの報道部門
- ・ 住民は、三条市、名古屋市、静岡市、高知市、浅間山周辺市町村(長野県・群馬県)のそれぞれ 100、100、200、200、200 人にアンケートを送付、浅間山周辺市町村は、長野県が小諸市・軽井沢町、群馬県が長野原町・嬬恋村で、各 50 人。

防災気象情報と地域の関係は、次のとおり。

(送付数)	三条市 100	名古屋市 100	静岡市 200	高知市 200	浅間山周辺 200
大雨警報					
台風情報					
地震情報					
津波予報・警報					
東海地震情報					
火山情報					

- ・ 三条市は、平成 16 年 7 月の新潟豪雨で床上浸水被害があった地域の住民
- ・ 名古屋市は、平成 12 年 9 月の東海豪雨で被災した西区の住民
- ・ 静岡市は、平成 13 年度調査との比較を勘案し、旧清水市の住民
- ・ 高知市は、津波被害想定地域の住民

1 - 4 . 調査の方法と期間

アンケート調査(質問紙郵送法による郵送配布・回収)によって、平成 16 年 11 月上旬から 1 月にかけて実施した。

1 - 5 . アンケートの回収状況

全体回収率(有効回答数 N) : 56.1% (N=2,954)

対象区分別の回収率(有効回答数 N) :

防災関係機関 : 60.4% (N=2,696)

都道府県 (消防防災、警察、 河川管理等)	市区町村 (防災担当)	消防本部 (警防担当)	ライフライン (電気、ガス、 通信、鉄道等)	報道 (テレビ、ラジオ、 新聞等)
61.5% (N=112)	56.1% (N=1,712)	83.1% (N=734)	63.7% (N=74)	27.8% (N=64)

住民 : 32.2% (N=258)

三条市	名古屋市	静岡市	高知市	浅間山周辺
32.0% (N=32)	24.0% (N=24)	30.5% (N=61)	33.5% (N=67)	37.0% (N=74)

1 - 6 . アンケート結果の集計・分析方法

集計・分析は、情報の種類ごとに行い、防災関係機関では、原則として都道府県、市区町村、消防本部、ライフラインと報道の別に、住民では、居住地別に行った。

満足度の集計・分析は、防災関係機関では「調査対象の情報を入手している」と回答した機関を、住民では「調査対象の情報について知っている(認知)」と回答した住民を、それぞれ調査対象とした。なお、大雨警報と台風情報の集計・分析では、ほとんど全ての防災関係機関が情報を入手しており、回答のあった全機関を対象とした。

アンケート質問票では、情報の種類ごとに、その内容、発表・伝達、解説等の評価項目を設けて、各評価項目の満足度(「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」の4択)と重視度(「重視する」、「やや重視する」、「あまり重視しない」、「重視しない」の4択)を把握した上で、その情報についての総合的な満足度の評価(「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」の4択)を回答するようにしており、集計・分析では、それぞれ4択の各回答の数とその回答の全回答者数に対する割合(%)を集計するとともに、評価項目ごとの満足度・重視度の関係、満足度と災害経験の関係等を分析した。

満足度・重視度の評価項目の数は、大雨警報が18(5)項目、台風情報が11(5)項目、地震情報が17(6)項目、津波予報・情報が14(8)項目、東海地震情報が9(2)項目、火山情報が10(3)項目である。なお、住民は、情報の入手方法が限られていることなどから、評価項目数を絞って調査した(括弧内の数が、住民を対象とした評価項目の数)。

調査結果

2 - 1 . 集計・分析の概要

結果は、総合満足度の概要、情報別(大雨警報、台風情報、地震情報、津波予報・情報、東海地震情報、火山情報)の満足度の集計・分析に分けて記述している。各情報の満足度では、利用者の区分別(都道府県、市区町村、消防本部、ライフライン、報道と住民)に、さらに可能なものは住民の居住地別に集計を行っている。また、各情報では評価項目ごとの満足度や重視度の集計・分析の結果も記述している。

さらに、気象統計情報に対する満足度の結果も記述した。

また、結果は可能な範囲で、前回調査結果(平成 13 年度調査)と比較して記述した。

以下、集計・分析結果において用いる用語を事前に解説する。

総合満足度と総合評価点

情報ごとの総合満足度は、利用者の区分別に「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」と無回答を集計したもので、それぞれの割合(%)を回答総数、総合評価点とともに示す。総合評価点は、満足度を 100 点満点で測るため、「満足」、「まあ満足」、「やや不満足」、「不満足」のそれぞれに、均等に 100、67、33、0 の重み点を与えて、その 4 回答の全体を平均したもので、満足度分析の一般的方法である。

評価項目ごとの満足度(重視度)評価点

評価項目ごとの満足度(重視度)評価点は、各情報の評価項目ごとの満足度(重視度)に対して 4 択で回答された「満足(重視する)」、「まあ満足(やや重視する)」、「やや不満足(あまり重視しない)」、「不満足(重視しない)」のそれぞれに、100、67、33、0 の重み点を与えて、評価項目ごとに、その 4 回答を平均したものである。

評価項目ごとの改善要求度

各情報において、重視度評価点が高いにもかかわらず満足度評価点が低い評価項目は、利用者の改善への要求が高い事項と考えられるため、各情報において評価項目ごとの改善要求度を次式で定義する。

改善要求度 = (改善要求得点) / (情報ごとの改善要求得点の平均値)

ここで、改善要求得点 = 重視度評価点 × (100 - 満足度評価点)。

各情報において、評価項目ごとの改善要求度は 1 を中心とした値をとり、改善要求度が大きいほど、その評価項目に対する改善を要求する程度が大きい。

以上の評価項目ごとの満足度(重視度)や改善要求度は、利用者の区分別に分析している。

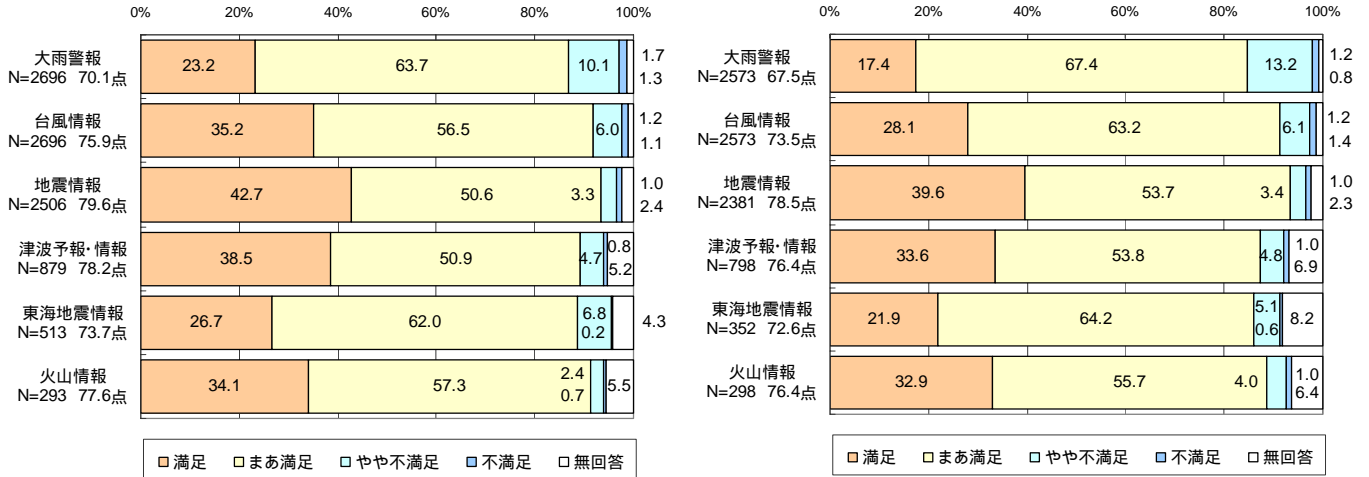
2 - 2 . 総合満足度の概要

(1)防災関係機関と住民の各情報に対する総合満足度

防災気象情報の種類別の総合満足度(防災関係機関)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)

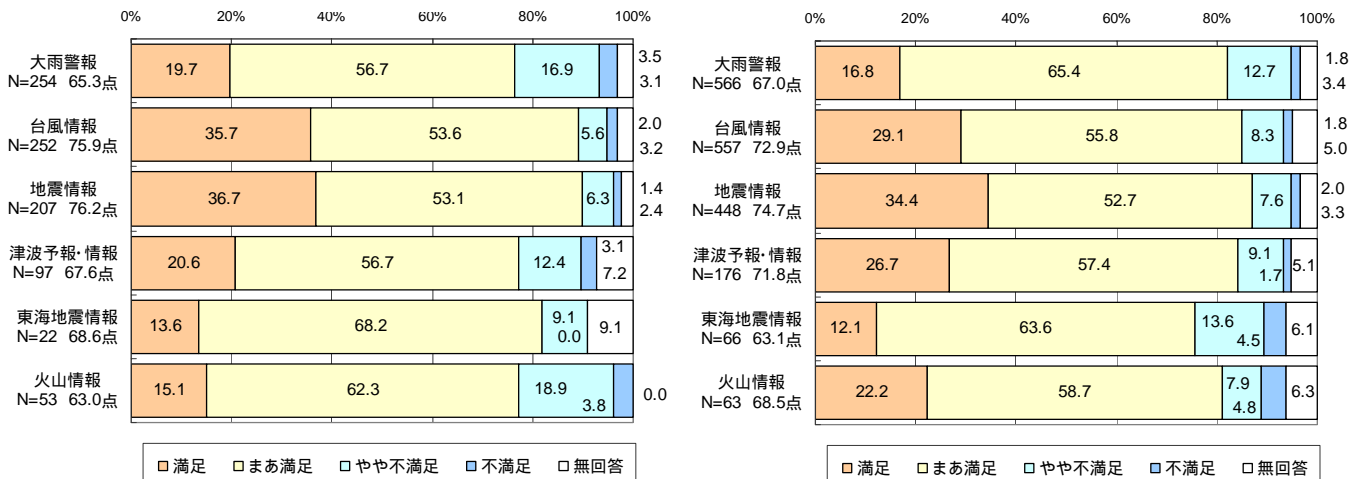


- 全ての情報について、「まあ満足」が 50%以上を占め、「満足」「まあ満足」を合計した満足計でも 80%を超えており、全体として満足度が高い。特に、地震情報、台風情報及び火山情報の防災関係機関における満足計は、9 割を超えている。防災関係機関においては、前回調査に比べて、「満足」の割合が上昇しており、満足度は高くなっている。

防災気象情報の種類別の総合満足度(住民)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)

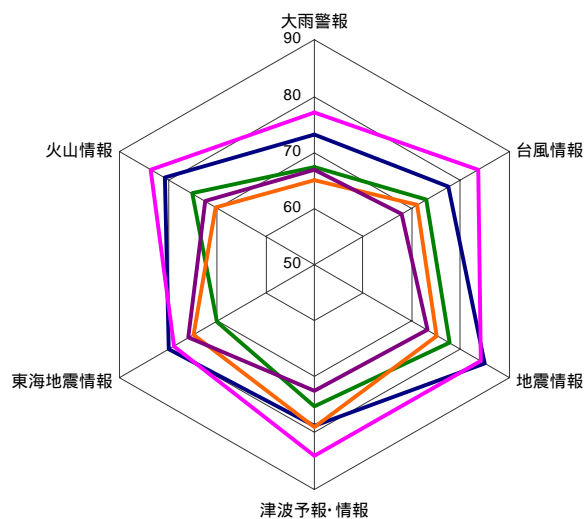


- 住民でも、全ての情報について、「まあ満足」が 50%以上を占め、全体として満足度が高い。「満足」「まあ満足」を合計した満足計では概ね 8 割を占めている。総合評価点では、防災関係機関同様、地震情報が 76 点と最も高い。

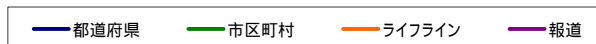
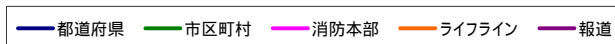
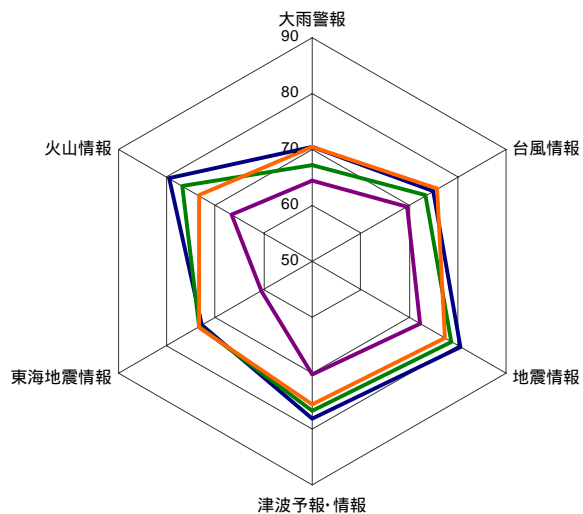
(2)情報ごとに利用者の区別でみた総合満足度

情報の種類別・利用者別にみた総合満足度(評価点)(防災関係機関)

(平成16年度)



(平成13年度)

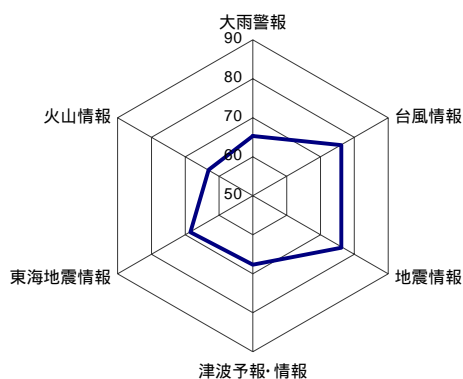


- ・ 利用者の区別別に満足度(評価点)を見ると、全般的に消防本部、次いで都道府県の満足度が高くなっている。
- ・ 前回調査結果と比較すると、満足度の最も高かった都道府県ではさほど変化は見られないが、全ての情報で満足度の最も低かった報道では概ね満足度が上昇しており、特に東海地震情報の満足度は高く、都道府県、消防本部に次ぐ満足度となっている。

情報の種類別・利用者別にみた総合満足度(評価点)(住民)

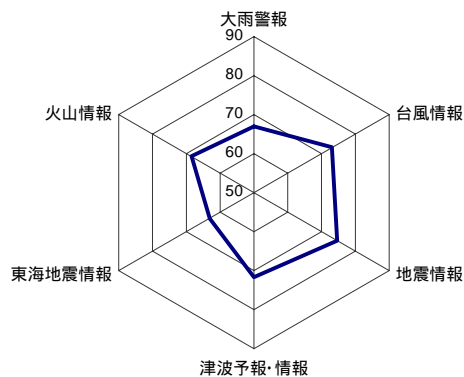
(平成16年度)

住民 N=254



(平成13年度)

住民 N=566

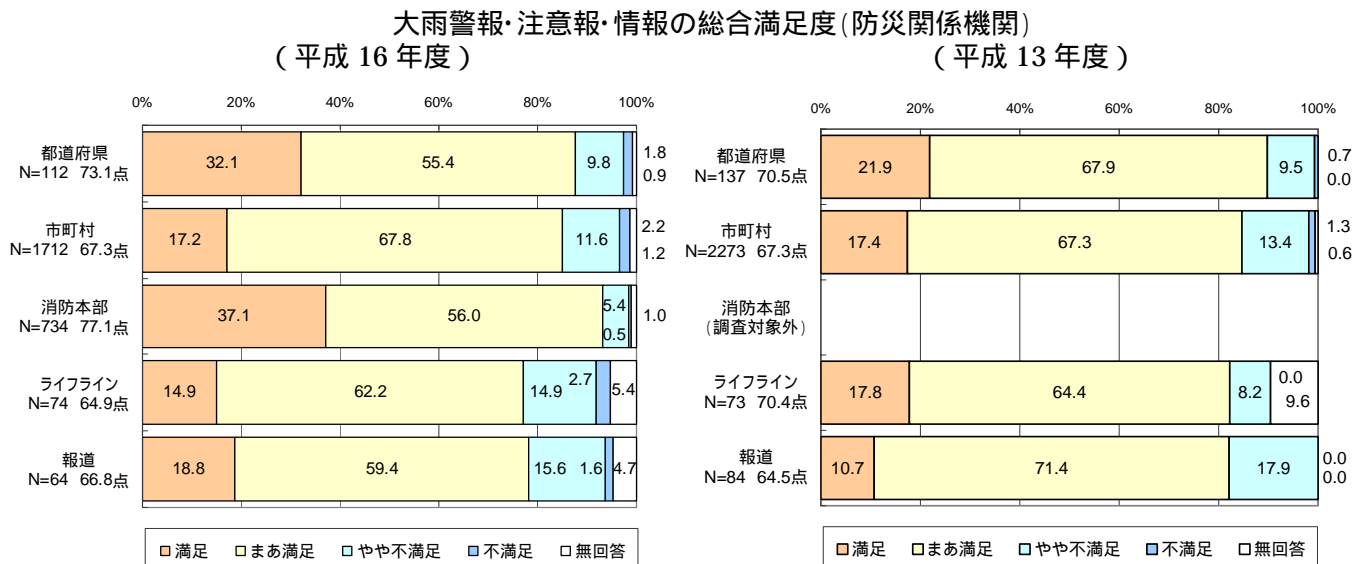


- ・ 住民の満足度(評価点)は、台風情報と地震情報で高くなっており、前回調査と同様であるが、評価は高まっている。
- ・ 前回調査結果と比較すると、東海地震情報の満足度は高くなり、火山情報の満足度では落ち込んでいる。

2 - 3. 情報別の満足度の集計・分析

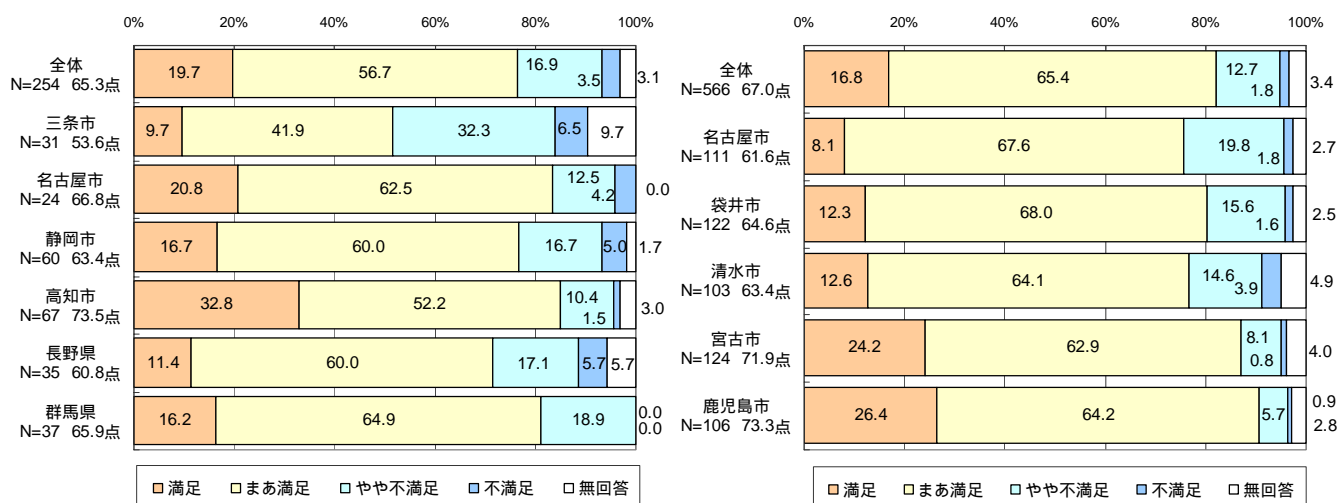
(1) 大雨警報の満足度

ア 大雨警報の総合満足度



- ・ 防災関連機関利用者の大雨警報の総合満足度(上図左)は、都道府県、市町村、消防本部では「満足」「まあ満足」を合計した満足計が85%以上と高い満足度を示しているが、ライフライン、報道では77%、78%とやや低い満足度となっている。
- ・ 前回調査(上図右)と比べると、市町村は大きな差はないが、ライフラインは「やや不満足」「不満足」が増加したため総合評価点が6ポイント減少し、満足度が低くなっている。

大雨警報・注意報・情報の総合満足度(住民)
(平成 16 年度) (平成 13 年度)

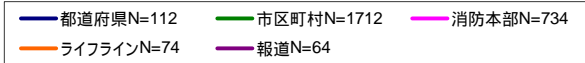
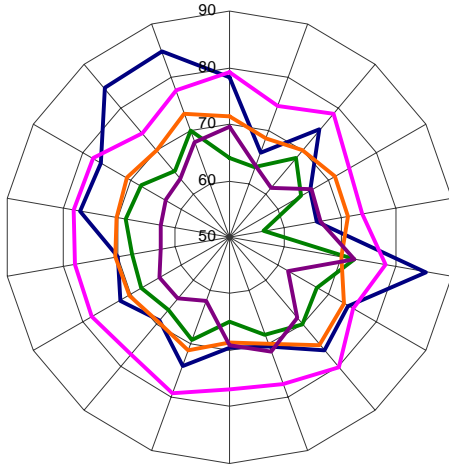


- ・ 住民の満足度は、満足計の平均が76%と他の情報等と比べてやや低い満足度となっている。また、最も高い高知市(85%)と最も低い三条市(52%)では33ポイントの差があり、地域間の差が大きい。

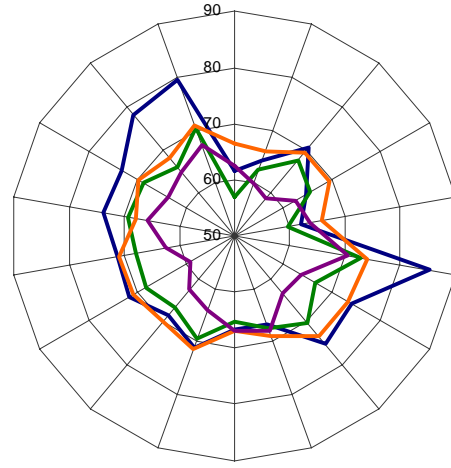
イ 大雨警報・注意報とこれらに関する情報の評価項目ごとの満足度・重視度

大雨警報などに対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)

(平成16年度)



(平成13年度)



評価項目

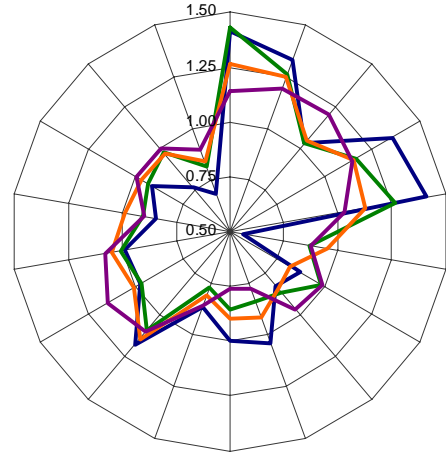
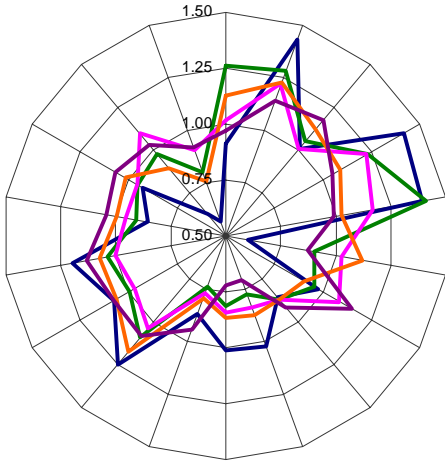
警報の発表地域(単位)	入手した情報のきれいさ・見やすさ	気象情報の内容のわかりやすさ
警報の雨の降り方の予想(精度)	受信装置の操作性	気象情報の防災上の警戒事項
警報の内容のわかりやすさ	注意報の発表タイミング	気象台の解説内容の専門性
警報の発表のタイミング	注意報の解除タイミング	気象台の解説のわかりやすさ
警報の解除のタイミング	注意報の内容のわかりやすさ	気象台との連携
警報発表から受信までの伝達時間	気象情報の雨の実況と今後の予想	気象台職員の対応

- ・ 大雨警報などに対する満足度(評価点)は、全般傾向では消防本部で高く、報道で低い。
- ・ 前回調査結果と比較すると、全ての利用者で全般的に満足度の増加傾向が見られる。

大雨警報などに対する評価項目ごとの改善要求度(防災関係機関)

(平成16年度)

(平成13年度)



— 都道府県N=112 — 市区町村N=1712 — 消防本部N=734
— ライフラインN=74 — 報道N=64

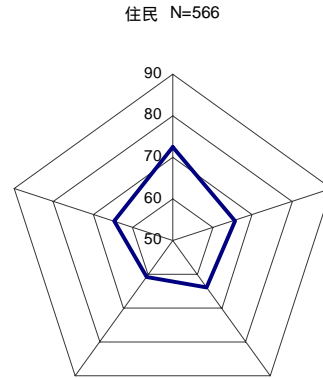
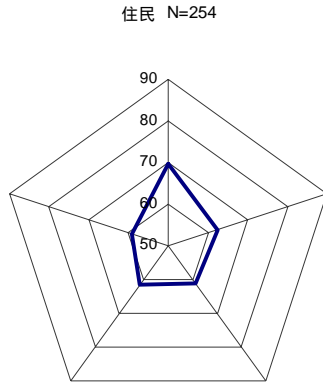
— 都道府県N=137 — 市区町村N=2273
— ライフラインN=73 — 報道N=84

評価項目

警報の発表地域(単位)	入手した情報のきれいさ・見やすさ	気象情報の内容のわかりやすさ
警報の雨の降り方の予想(精度)	受信装置の操作性	気象情報の防災上の警戒事項
警報の内容のわかりやすさ	注意報の発表タイミング	気象台の解説内容の専門性
警報の発表のタイミング	注意報の解除タイミング	気象台の解説のわかりやすさ
警報の解除のタイミング	注意報の内容のわかりやすさ	気象台との連携
警報発表から受信までの伝達時間	気象情報の雨の実況と今後の予想	気象台職員の対応

- ・ 改善要求度は、各利用者とも共通した傾向が見られる。特に改善要求度が高い項目は 、 、 があげられる。
- ・ 前回調査結果と比較すると、特に 、 、 ~ への改善要求度が増している。一方、 は前回調査に比べて、改善要求度は軽減している。

大雨警報などに対する評価項目ごとの満足度(住民)
 (平成 16 年度) (平成 13 年度)



評価項目(平成 16 年度)

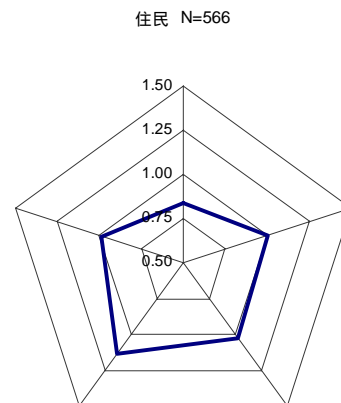
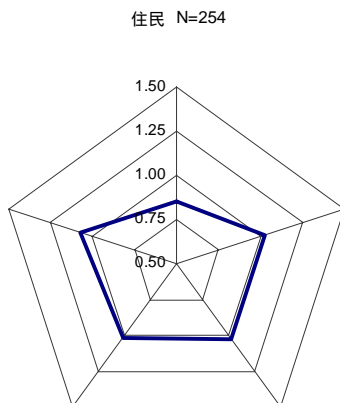
警報・注意報の伝えられ方(手段)	警報・注意報が発表される地域(広がり)	警報の入手タイミング
警報・注意報が発表されるタイミング	警報の入手方法	

評価項目(平成 13 年度)

警報・注意報の伝えられ方(手段)	警報・注意報が発表される地域(広がり)	内容のわかりやすさ
警報・注意報が発表されるタイミング	雨の降り方の予想(精度)	

- ・ 前回調査結果と比較できる ～ を見ると、大雨警報などに対する住民の満足度(評価点)は、前回よりも若干評価が低い。また、評価項目の中では、 や が低く、情報の入手に関する満足度が低い。

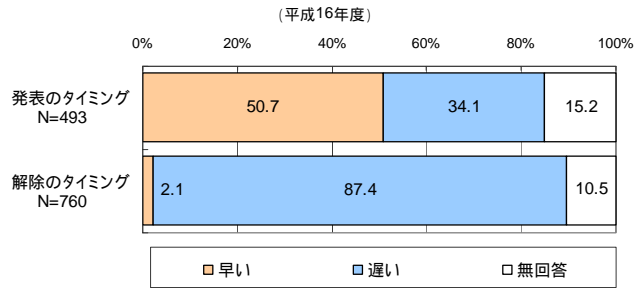
大雨警報などに対する評価項目ごとの改善要求度(住民)
 (平成 16 年度) (平成 13 年度)



- ・ 大雨警報などに対する住民の改善要求度は、満足度同様 ～ が前回調査結果との比較が可能であるが、傾向は変わっていない。
- ・ 評価項目の中では、 (警報の入手のタイミング)に対する改善要求度が最も高くなっている。

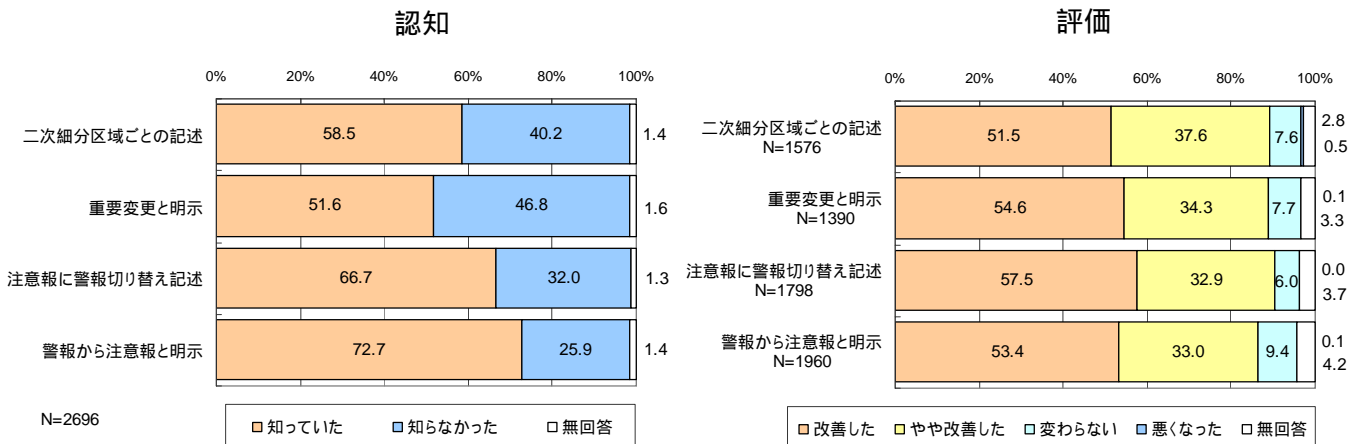
大雨警報の発表と解除のタイミング(防災関係機関)

(評価項目 ・ で「やや不満足」「不満足」回答した防災関係機関)



- 大雨警報の発表と解除のタイミングについて、不満足(「やや不満足」「不満足」を合計)とした防災関係機関は、発表のタイミングについては5割が「早い」と回答し、解除のタイミングでは9割弱が「遅い」と回答している。

大雨警報の改善についての認知と評価(防災関係機関)



- 防災関係機関の大雨警報については、全ての改善で過半数を超えた認知になっている。“警報から注意報と明示”で認知度は73%と最も高く次いで、“注意報に警報切り替え記述”で67%となっている。
- また、その改善への評価を見ると、全ての改善について、「改善した」が50%以上を占め、「改善した」「やや改善した」を合計した改善計でも9割近くを占めている。

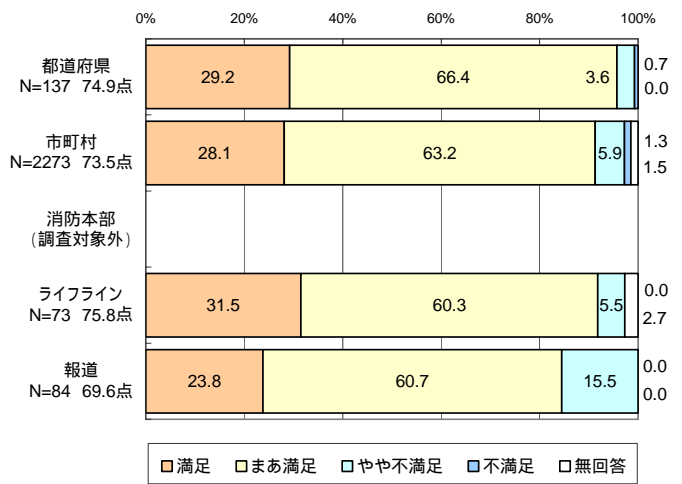
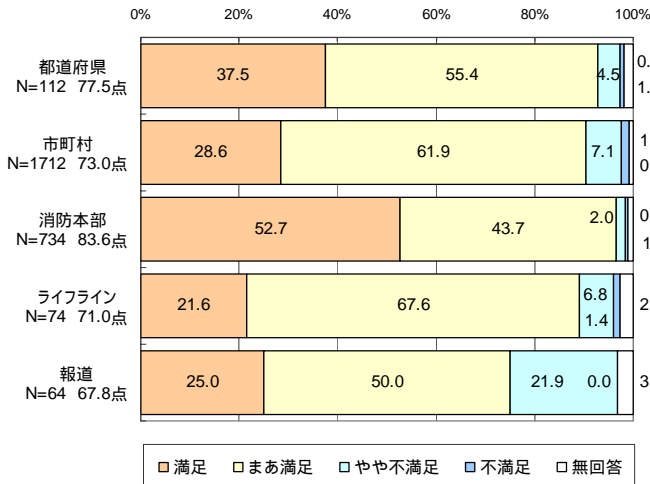
(2) 台風情報の満足度

ア 台風情報の総合満足度

台風情報の総合満足度(防災関係機関)

(平成16年度)

(平成13年度)

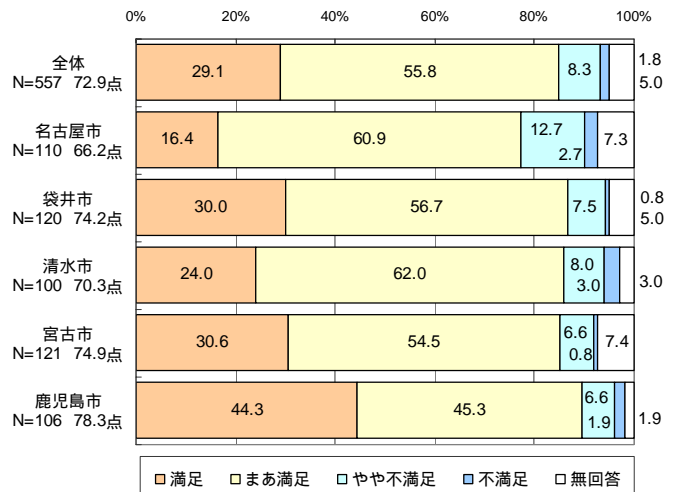
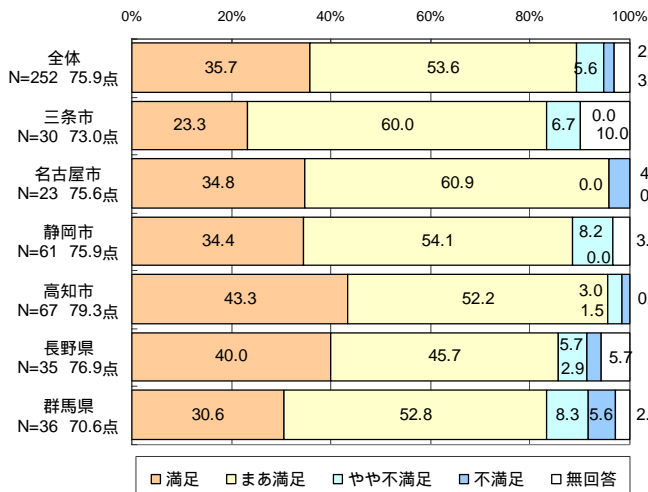


- ・ 台風情報の総合満足度は、都道府県、市町村、消防本部、ライフラインでは満足計が89%以上と高い満足度を示している。特に、消防本部では「満足」が52%、総合評価点が84点と高くなっている。それに比べ、報道は、満足計が75%と他に比べて低くなっている。
- ・ 前回調査と比べると、都道府県では「満足」が8ポイント高く、満足度が高くなっているが、ライフラインでは「満足」が10ポイント低下、報道では満足計が10ポイント低下し、満足度が低くなっている。

台風情報の総合満足度(住民)

(平成16年度)

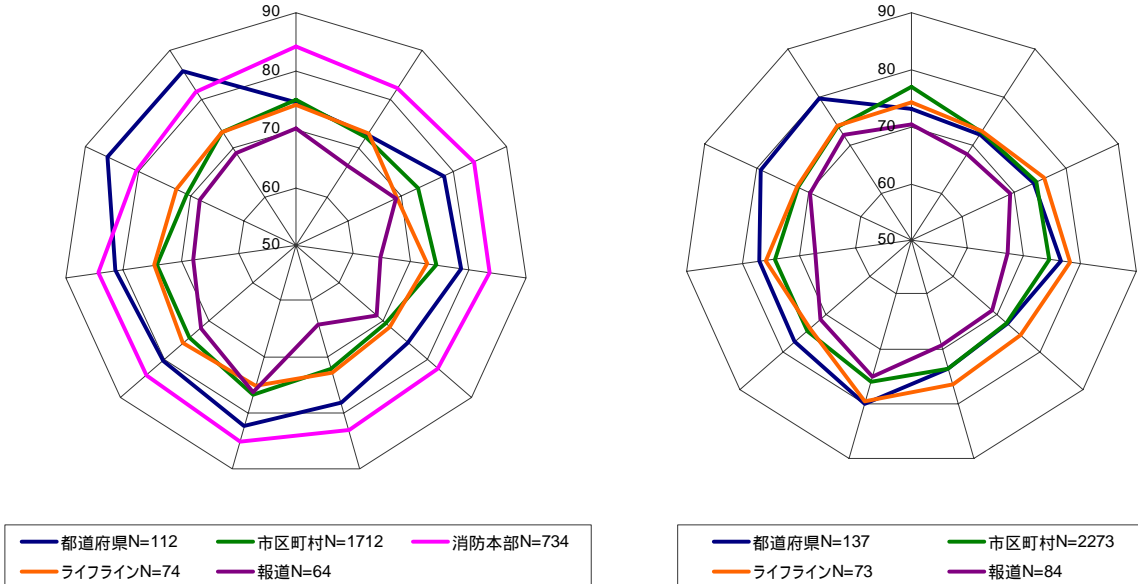
(平成13年度)



- ・ 住民の満足度は、各居住地とも満足計が80%を超え、平均が89%と全体として高い満足度を示している。

イ 台風情報の評価項目ごとの満足度・重視度

台風情報に対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)
(平成 16 年度) (平成 13 年度)



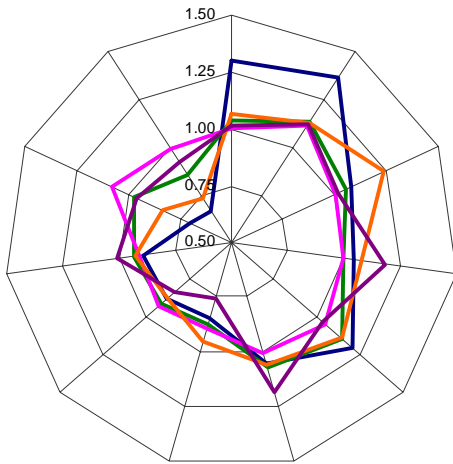
評価項目

予報精度(台風の位置・風の強さ)	発表の頻度	気象台の解説内容の専門性
予報期間(24 時間先、48 時間先など)	発表のタイミング	気象台の解説のわかりやすさ
必要な内容・適切な情報量	入手のしやすさ	気象台との連携
内容のわかりやすさ(本文・図)		気象台職員の対応

- ・ 台風情報に対する満足度(評価点)の全般傾向では、消防本部が高く、評価項目別でも消防本部は他の利用者に比べて総じて満足度が高い。次いで全般的に満足度が高いのは都道府県だが、評価項目別には満足度の高低の差が大きい。特に満足度が高かったものに 、 、低いもので 、 があげられている。
- ・ 前回調査結果と比較すると、都道府県は概ねの項目で満足度が増加している。他の利用者は前回とあまり差は見られないものの、その中で報道における で満足度が落ち込んでいるのがやや目立つ。

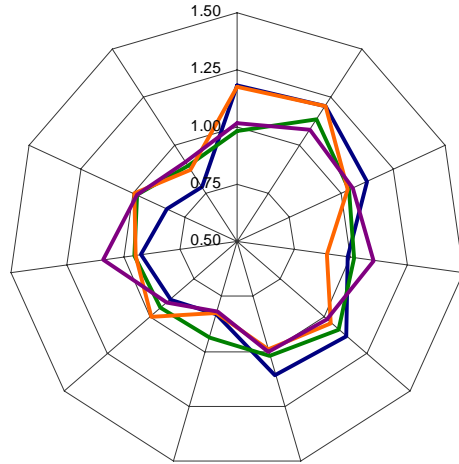
台風情報に対する評価項目ごとの改善要求度(防災関係機関)

(平成16年度)



都道府県N=112 市区町村N=1712 消防本部N=734
ライフラインN=74 報道N=64

(平成13年度)



都道府県N=137 市区町村N=2273
ライフラインN=73 報道N=84

評価項目

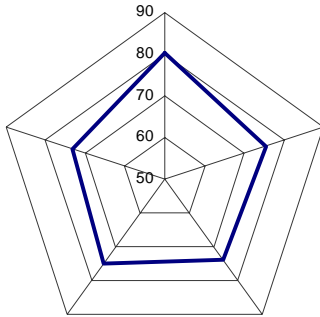
予報精度(台風の位置・風の強さ)	発表の頻度	気象台の解説内容の専門性
予報期間(24時間先、48時間先など)	発表のタイミング	気象台の解説のわかりやすさ
必要な内容・適切な情報量	入手のしやすさ	気象台との連携
内容のわかりやすさ(本文・図)		気象台職員の対応

- ・ 台風情報に対する改善要求度は、全般的には ~ について低くなっているが、 、 で高い傾向が見られる。また、利用者別では、都道府県における 、 といった予報に関する改善要求が他に比べて高く顕著である。
- ・ 前回調査結果と比べると全般傾向では大きな差はないが、 、 への改善要求の高まりが目立って増加している。

台風情報に対する評価項目ごとの満足度(住民)

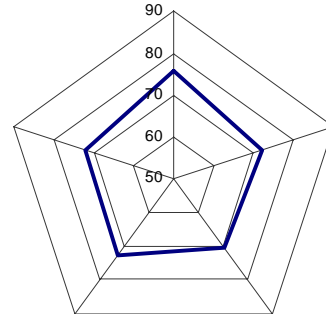
(平成 16 年度)

住民 N=252



(平成 13 年度)

住民 N=557



評価項目

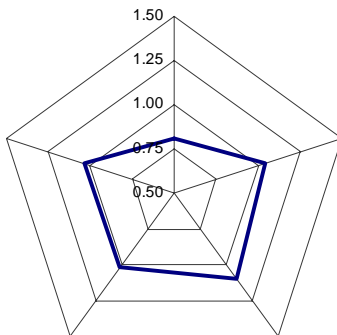
発表されるタイミング	予想期間(24 時間先、48 時間先など)	防災上の警戒事項などの解説
予報精度(台風の進路・風の強さ)	台風情報の表示やその解説	

- ・ 台風情報に対する住民の満足度(評価点)は、 が最も高く 80 点を超えている。前回調査結果と比較すると、全ての評価項目で満足度は高くなっている。

台風情報に対する評価項目ごとの改善要求度(住民)

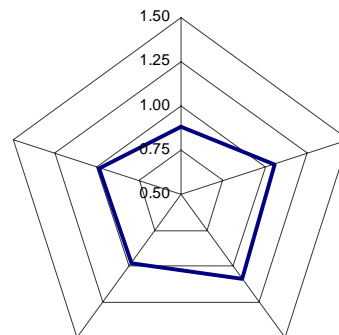
(平成 16 年度)

住民 N=252



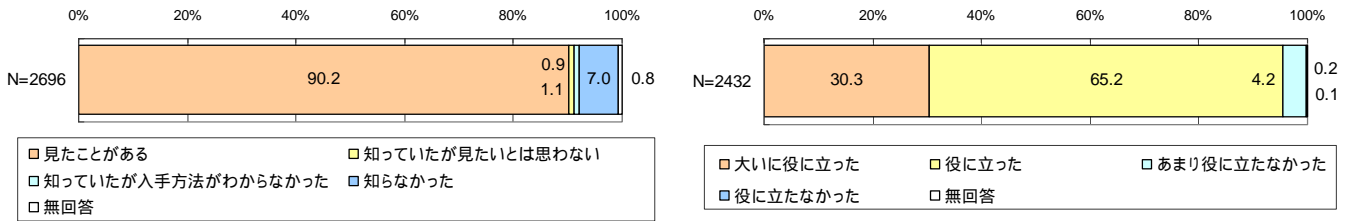
(平成 13 年度)

住民 N=557



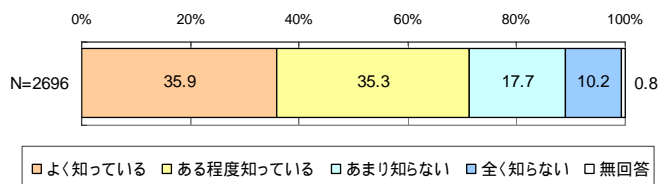
- ・ 台風情報に対する住民の改善要求度は、前回調査結果と同じ傾向となっている。

72 時間先までの台風の位置と強度の予報についての認知と有用性
(防災関係機関)



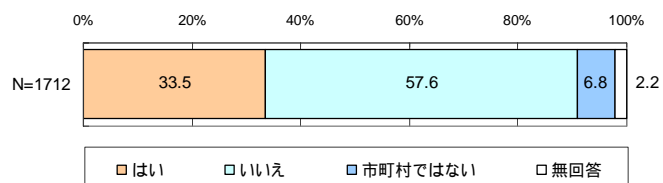
- ・ 72 時間先までの台風の位置と強度の予報についての認知は、「見たことがある」とする機関が 9 割を占めており、認知度が高い。
- ・ また、その有用性についても、有用(「大いに役に立った」「役に立った」の合計)が 96%と非常に高くなっている。

48 時間先まで 3 時間毎暴風域に入る確率提供の認知
(防災関係機関)



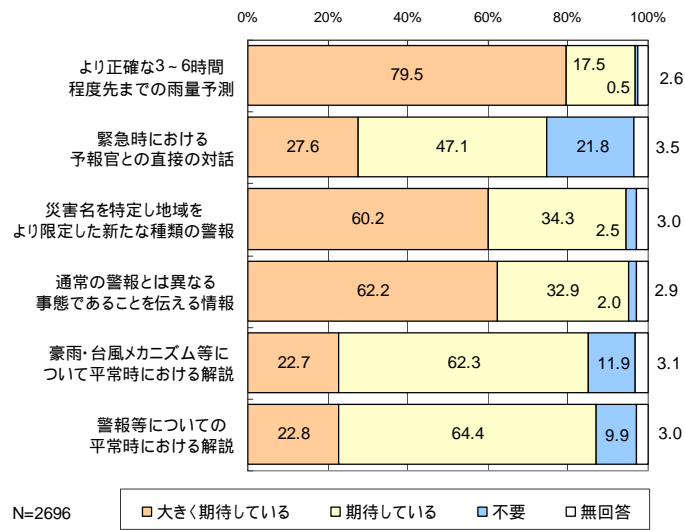
- ・ 48 時間先まで 3 時間毎に暴風域に入る確率提供についての認知は、「知っている」「よく知っている」「ある程度知っている」の合計)とする機関が 7 割を超えている。一方、「全く知らない」が 1 割ほどみられた。

避難準備、避難勧告、避難指示を出すための指標や基準の有無
(防災関係機関のうち市町村のみ)



- ・ 市町村について、避難準備、避難勧告、避難指示を出すための指標や基準の有無を聞いたところ、基準が「ない」とする自治体が 58%を占めており、半数以上の市町村で指標や基準が整備されていない。

気象台に期待する改善点や新たな情報
(防災関係機関)

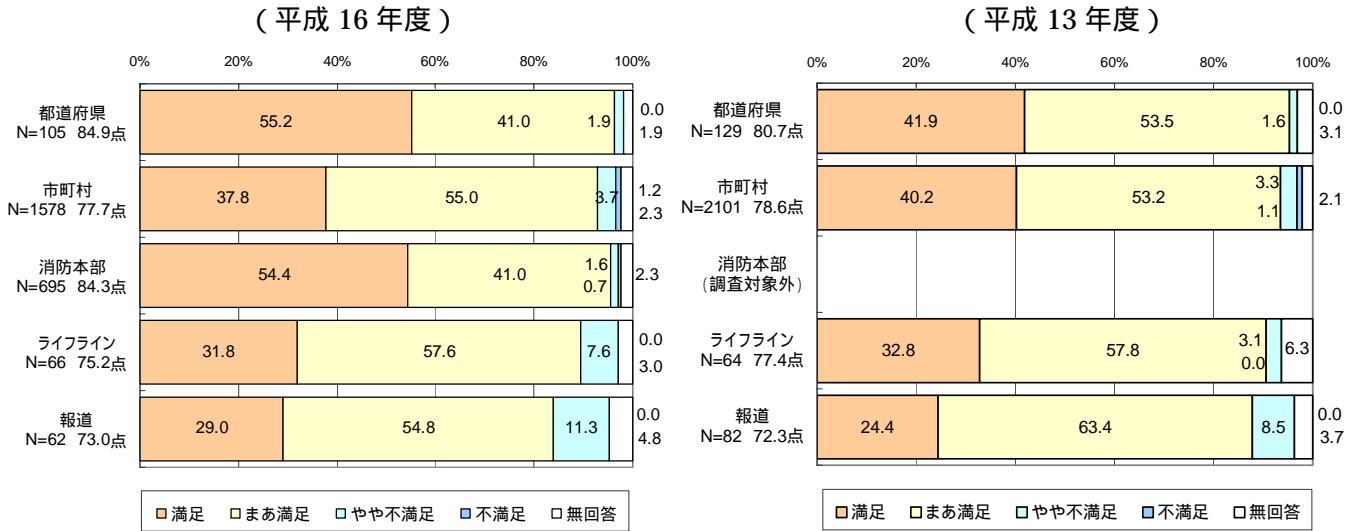


- 気象台に期待する改善点や新たな情報については、“より正確な3～6時間程度先までの雨量予測”、“災害名を特定し地域をより限定した新たな種類の警報”、“通常の警報とは異なる事態であることを伝える情報”で「大きく期待している」が6割以上を占め、非常に期待度が高い。「大いに期待している」と「期待している」を合計した期待計では、“緊急時における予報官との直接の対話”以外で8割を超えている。なお、“緊急時における予報官との直接の対話”については、「不要」が2割を占めている。

(3) 地震情報の満足度

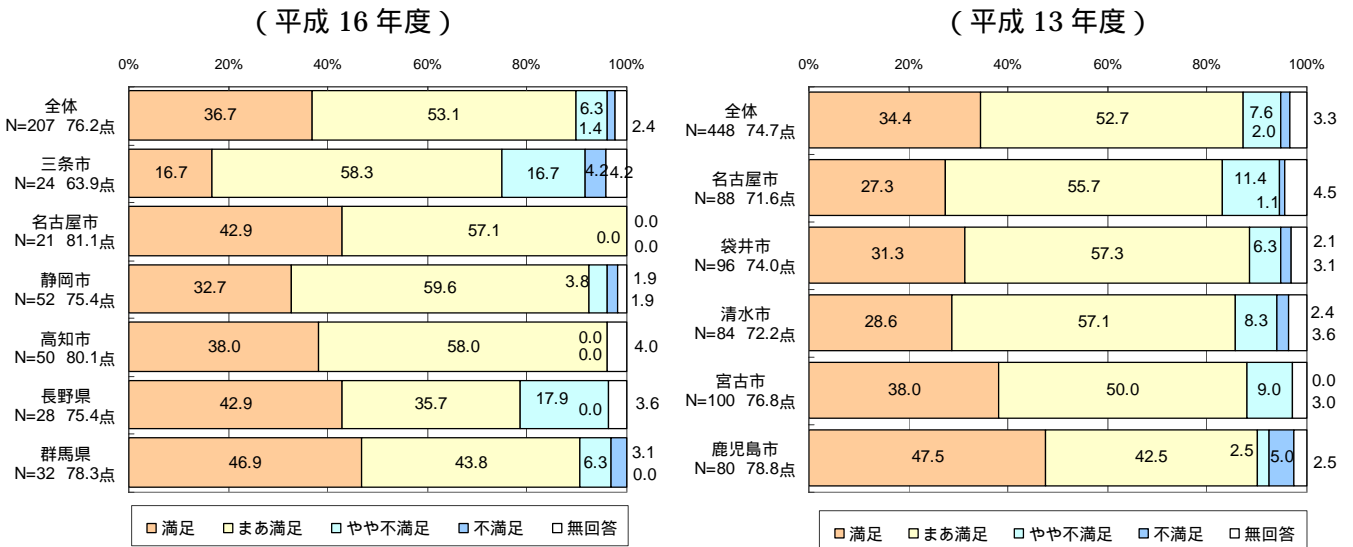
ア 地震情報の総合満足度

地震情報の総合満足度(防災関係機関)



- ・ 地震情報の総合満足度は、各利用者とも満足計が80%を超えており、全体として高い満足度を示している。特に、都道府県、市町村、消防本部では満足計が90%を超えている。
- ・ 前回調査と比べると、都道府県では「満足」が13ポイント高く、満足度が高くなっている。その他の利用者の満足度は大きな差がない。

地震情報の総合満足度(住民)



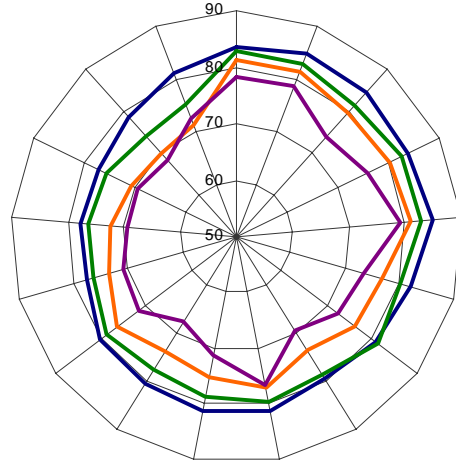
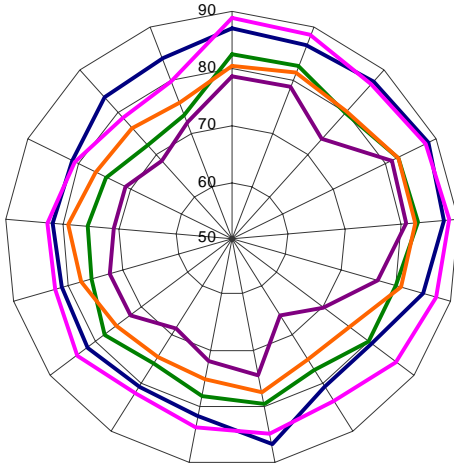
- ・ 住民の満足度は、合計で満足計の平均が90%と高く、全体として高い満足度を示している。しかし、他の居住地では90%を超えているが、三條市、長野県では、75%、79%とやや低い満足度となっている。

イ 地震情報の評価項目ごとの満足度・重視度

地震情報に対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)

(平成16年度)

(平成13年度)



都道府県N=105 市区町村N=1578 消防本部N=695
ライフラインN=66 報道N=62

都道府県N=129 市区町村N=2101
ライフラインN=64 報道N=82

評価項目

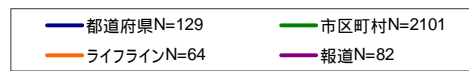
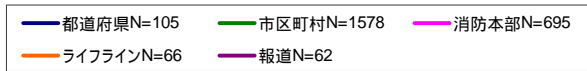
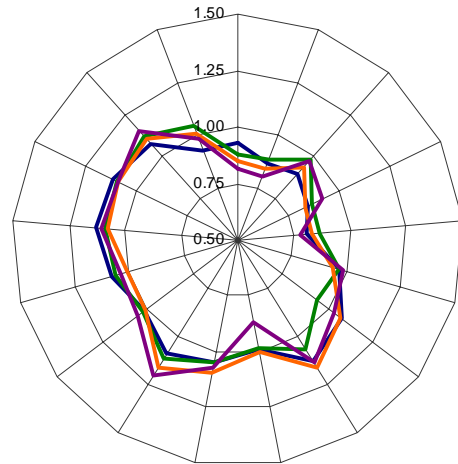
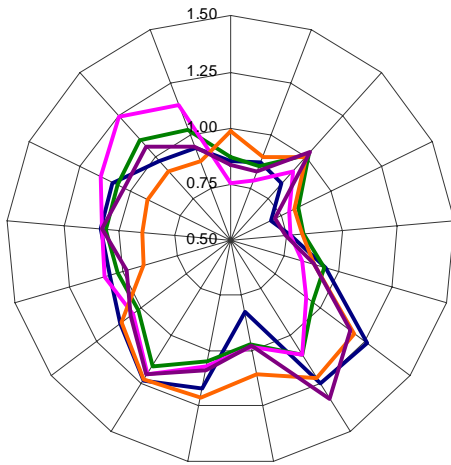
震度速報(発表地域の単位・名称)	震度速報の発表までの時間	気象台の解説内容の専門性
震度速報(発表基準)	市町村ごとの震度発表までの時間	気象台の解説のわかりやすさ
市町村(地点)ごとの発表震度	入手方法	地震解説資料
震源の精度・細かさ	震度速報を入手するまでの時間	気象台との連携
地震の規模(M:マグニチュード)	市町村ごとの震度入手までの時間	気象台職員の対応
内容のわかりやすさ	震源・規模を入手するまでの時間	

- ・ 評価項目ごとの満足度(評価点)では、全般的に消防本部、都道府県が高く、報道が低い。
- ・ 前回調査と比較すると、都道府県の評価は ~ 、 で非常に高くなっている。なお、市区町村、ライフラインは傾向が変わらない。

地震情報に対する評価項目ごとの改善要求度(防災関係機関)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)



評価項目

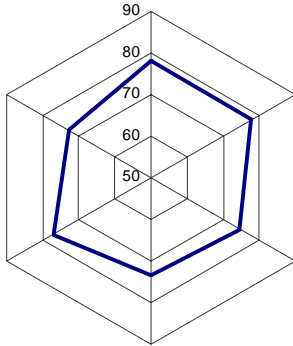
震度速報(発表地域の単位・名称)	震度速報の発表までの時間	気象台の解説内容の専門性
震度速報(発表基準)	市町村ごとの震度発表までの時間	気象台の解説のわかりやすさ
市町村(地点)ごとの発表震度	入手方法	地震解説資料
震源の精度・細かさ	震度速報を入手するまでの時間	気象台との連携
地震の規模(M:マグニチュード)	市町村ごとの震度入手までの時間	気象台職員の対応
内容のわかりやすさ	震源・規模を入手するまでの時間	

- ・ 地震情報に対する改善要求度は、各利用者とも類似した傾向が見られる。都道府県、報道で、消防本部で～の項目で改善要求が高い。
- ・ 前回調査と比較すると、への改善要求が高まっている。

地震情報に対する評価項目ごとの満足度(住民)

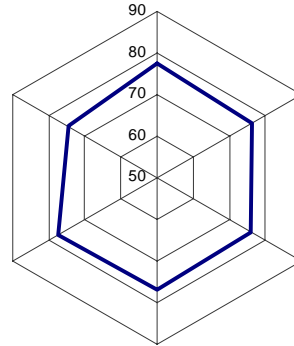
(平成 16 年度)

住民 N=207



(平成 13 年度)

住民 N=448



評価項目

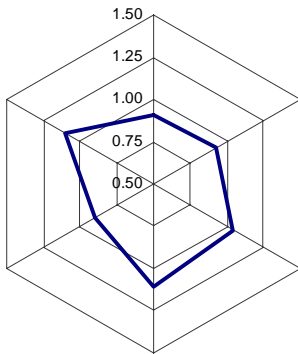
情報の伝えられ方(手段) 発表されるタイミング	震度速報(発表地域の広がり・名称) 市町村(地点)ごとの発表震度	震源地や地震の深さの表現 内容のわかりやすさ
----------------------------	-------------------------------------	---------------------------

- 地震情報に対する住民の満足度(評価点)は、前回調査結果と同じ傾向にあるが、と の情報伝達の手段やタイミングで若干評価が上がっているものの、 ~ の情報そのものについての評価は下がっている。

地震情報に対する評価項目ごとの改善要求度(住民)

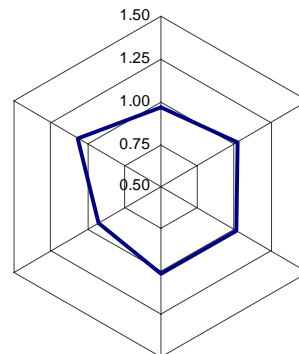
(平成 16 年度)

住民 N=207



(平成 13 年度)

住民 N=448

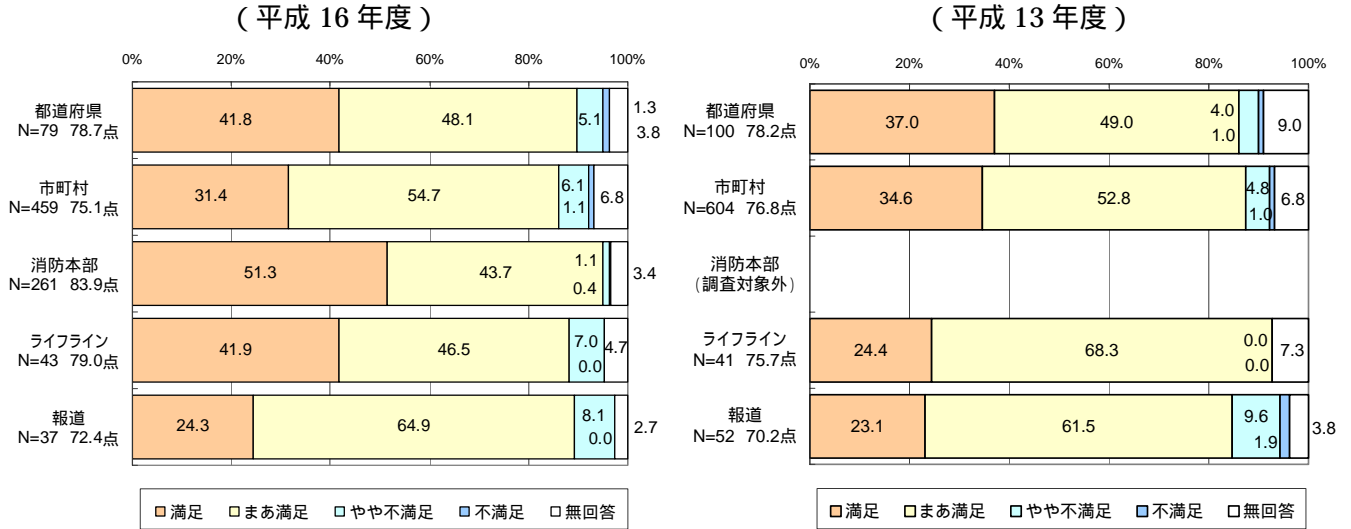


- 地震情報に対する住民の改善要求度は、前回調査結果と比較すると、(内容のわかりやすさ)と (市町村ごとの発表震度)の改善要求が高くなっている。

(4) 津波予報・情報の満足度

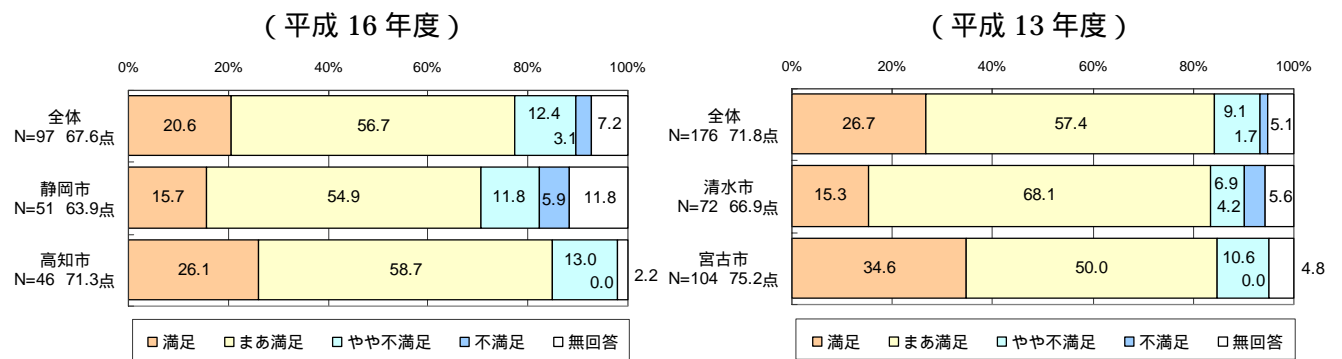
ア 津波予報・情報の総合満足度

津波予報・情報の総合満足度(防災関係機関)



- ・ 津波予報・情報の総合満足度は、各利用者とも満足計が 86%以上となっており、全体として高い満足度を示している。特に、消防本部では「満足」が 51%と最も高く、総合評価点が 84 点に上る。
- ・ 前回調査と比べると、ライフラインでは「満足」が 18 ポイント高く、満足度が高くなっている。その他の利用者の満足度は大きな差はない。

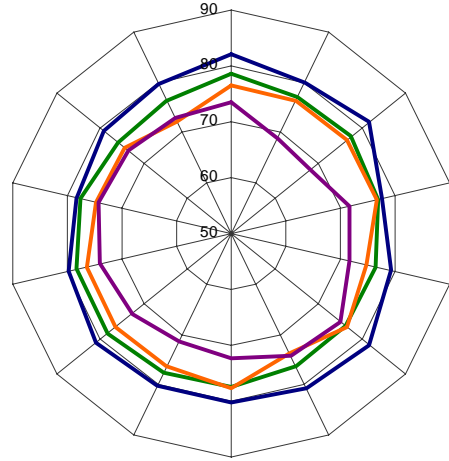
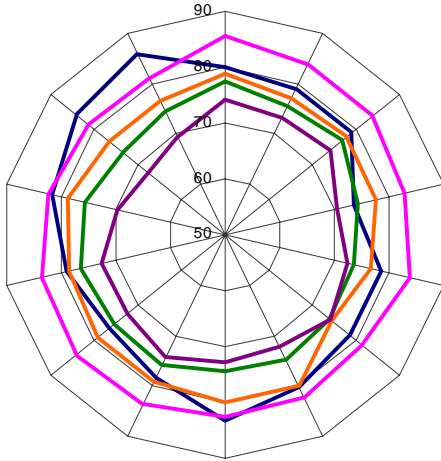
津波予報・情報の総合満足度(住民)



- ・ 住民の満足度は、満足計が静岡市では 71%、高知市では 85%と、高知市の満足度が高くなっている。

イ 津波予報・情報の評価項目ごとの満足度・重視度

津波予報・情報に対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)
(平成 16 年度) (平成 13 年度)



都道府県N=79 市区町村N=459 消防本部N=261
ライフラインN=43 報道N=37

都道府県N=100 市区町村N=604
ライフラインN=41 報道N=52

評価項目

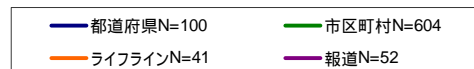
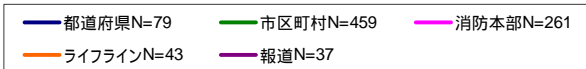
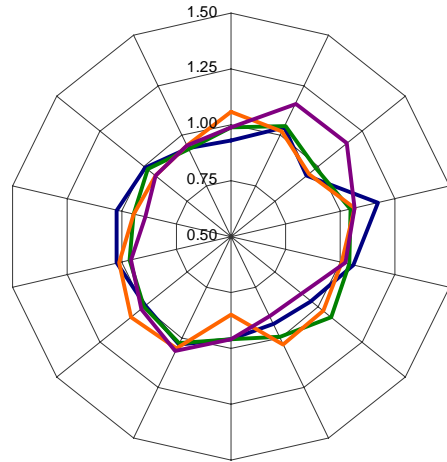
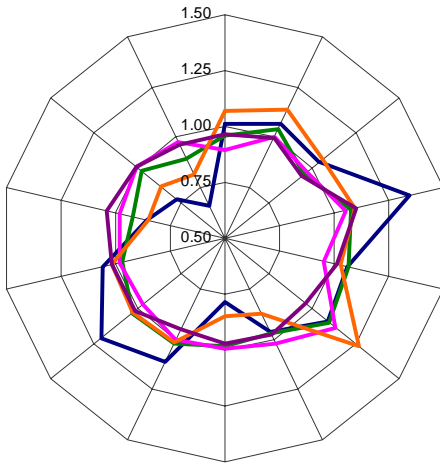
津波予報の対象地域(予報区)	発表から受信までの伝達時間	津波が観測された時刻や高さ
予測精度(警報、注意報の区分)	入手情報のきれいさ・見やすさ	地震解説資料
内容のわかりやすさ	受信装置の操作性	気象台との連携
発表のタイミング	各地で予想される津波の高さ	気象台職員への対応
解除のタイミング	津波が各地に到達する予想時刻	

- 津波予報・情報に対する満足度(評価点)は、全般傾向として、消防本部が高く、報道が低い。なお、
の項目では都道府県の評価が消防本部を上回っている。
- 前回調査結果と比較すると、ライフラインの評価は全般的に若干高くなっている一方、市区町村では若干
低くなっている。都道府県の評価では、
が高くなっている。

津波予報・情報に対する評価項目ごとの改善要求度(防災関係機関)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)



評価項目

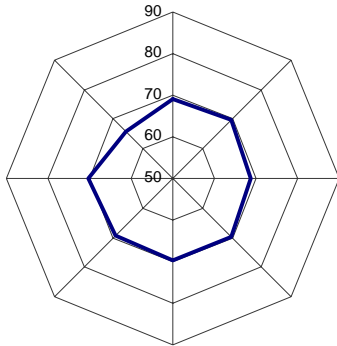
津波予報の対象地域(予報区)	発表から受信までの伝達時間	津波が観測された時刻や高さ
予測精度(警報、注意報の区分)	入手情報のきれいさ・見やすさ	地震解説資料
内容のわかりやすさ	受信装置の操作性	気象台との連携
発表のタイミング	各地で予想される津波の高さ	気象台職員の対応
解除のタイミング	津波が各地に到達する予想時刻	

- ・ 津波予報・情報に対する改善要求度の高い項目としては、都道府県における 、 、ライフラインにおけるが目立っている。
- ・ 前回調査結果と比較すると、都道府県における 、 は突出して高くなっている。

津波予報・情報に対する評価項目ごとの満足度(住民)

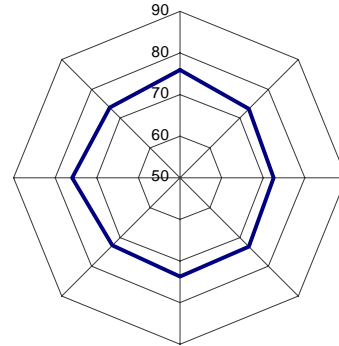
(平成 16 年度)

住民 N=97



(平成 13 年度)

住民 N=176



評価項目

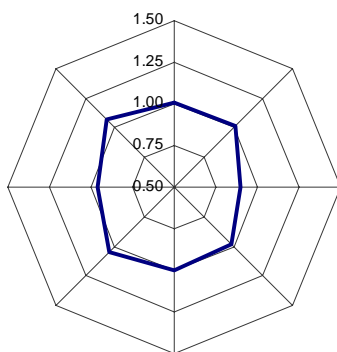
予報・情報の伝えられ方(手段) 発表のタイミング 解除のタイミング	予報区の広がりやその名称 各地で予想される津波の高さ 津波が各地に到達する予想時刻	津波が観測された時刻や高さ 内容のわかりやすさ
---	---	----------------------------

- ・ 津波情報に対する住民の満足度(評価点)は、全ての評価項目で 70 点程度であり、(内容のわかりやすさ)が若干低くなっている。
- ・ 前回調査結果(前回は清水市及び宮古市)と比べると、全般的に満足度は低い。

津波予報・情報に対する評価項目ごとの改善要求度(住民)

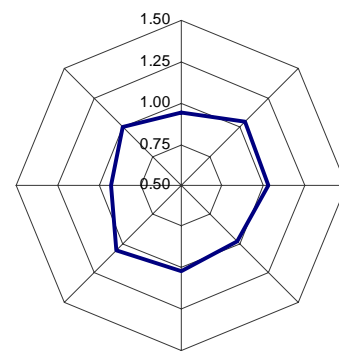
(平成 16 年度)

住民 N=97



(平成 13 年度)

住民 N=176

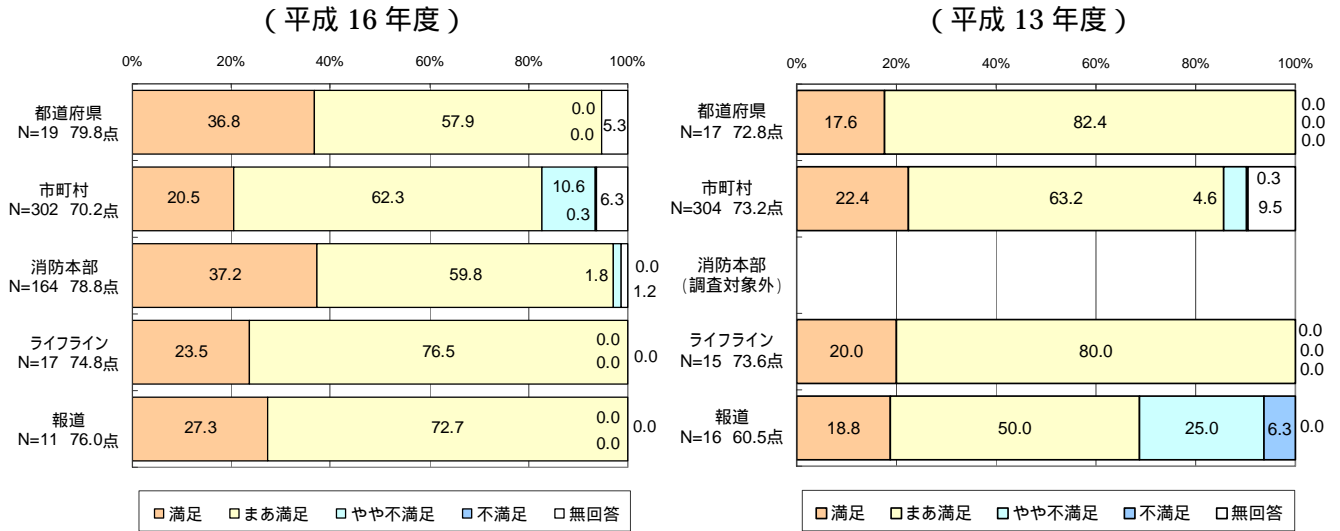


- ・ 津波情報に対する住民の改善要求度は、(内容のわかりやすさ)、(津波が各地に到達する予想時刻)の項目で高い。

(5) 東海地震に関連する情報の満足度

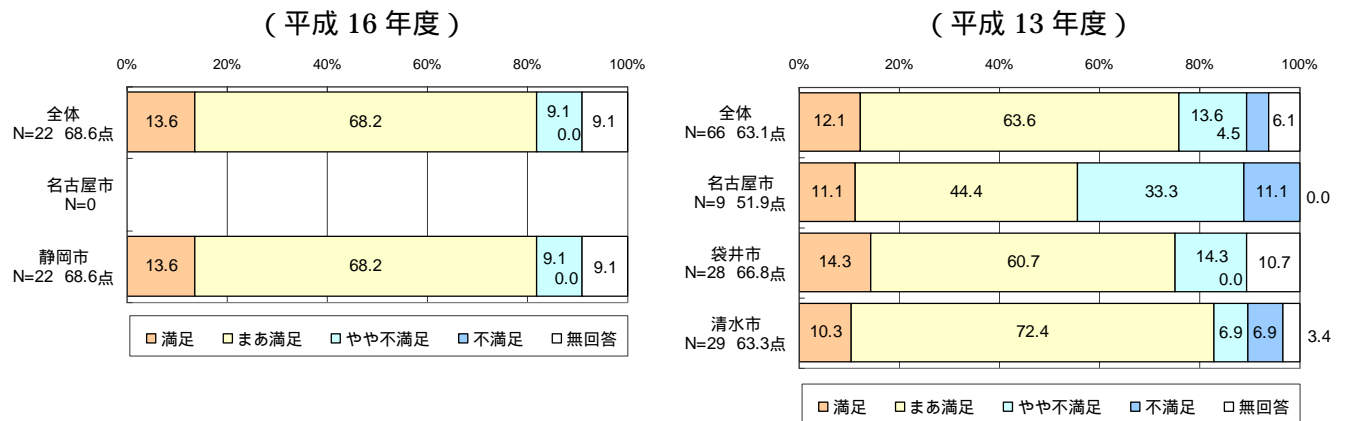
ア 東海地震に関連する情報の総合満足度

東海地震に関連する情報の総合満足度(防災関係機関)



- ・ 利用者の東海地震に関する情報の総合満足度は、都道府県、消防本部、ライフライン、報道の満足計が100%、或いは、100%近くに達しており、非常に高い満足度を示している。一方、市町村では83%となっている。

東海地震に関連する情報の総合満足度(住民)



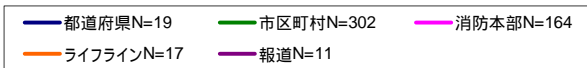
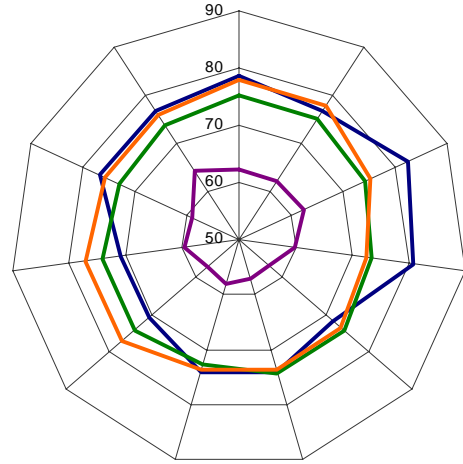
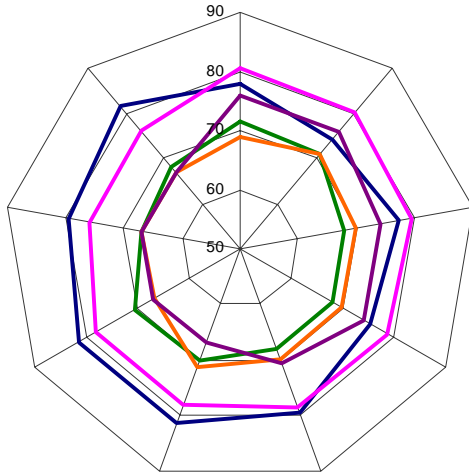
- ・ 静岡市の住民の総合満足度は、満足計が82%と高い満足度を示している。

イ 東海地震に関連する情報の評価項目ごとの満足度・重視度

東海地震に関連する情報に対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)



評価項目(平成 16 年度)

東海地震予知情報の内容 内容の理解のしやすさ 知りたい内容の有無	判定委員打合せコメントの内容・発表 内容の理解のしやすさ 知りたい内容の有無 入手までの時間	東海地震情報に関する解説や支援 気象台の解説内容の専門性 気象台の解説のわかりやすさ 気象台との連携 気象台職員の対応
--	---	---

評価項目(平成 13 年度)

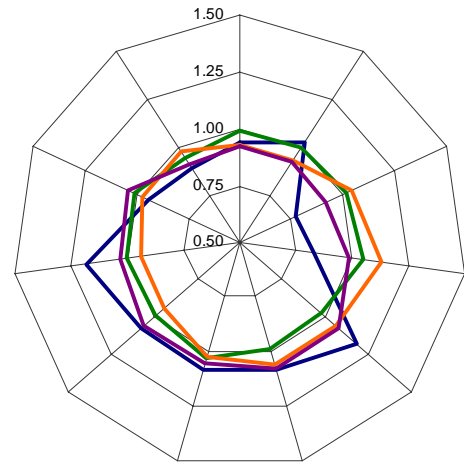
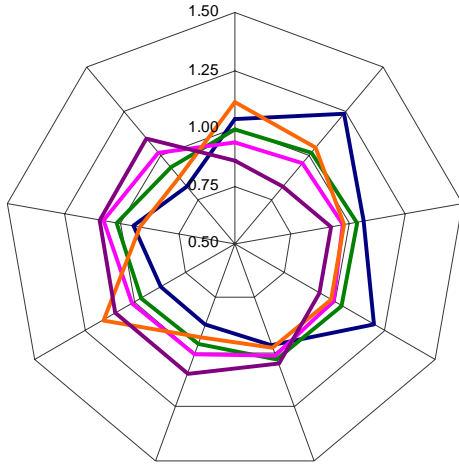
解説情報 内容の理解のしやすさ 知りたい内容の有無 発表のタイミング 入手までの時間	判定会委員打合せコメント 内容の理解のしやすさ 知りたい内容の有無 入手までの時間	(共通) 気象台の解説内容の専門性 気象台の解説のわかりやすさ 気象台との連携 気象台職員の対応
--	--	--

- ・ 東海地震に関連する情報に対する満足度(評価点)は、都道府県、消防本部の評価が高く、市区町村、ライフラインの評価が低い。
- ・ 前回調査結果と比較すると、報道の評価が全項目で 10 ポイント程度高くなっている。一方、ライフラインの評価が全項目で低くなっている。

東海地震に関連する情報に対する評価項目ごとの改善要求度 (防災関係機関)

(平成 16 年度)

(平成 13 年度)



— 都道府県N=19 — 市区町村N=302 — 消防本部N=164
— ライフラインN=17 — 報道N=11

— 都道府県N=17 — 市区町村N=304
— ライフラインN=15 — 報道N=16

評価項目 (平成 16 年度)

東海地震予知情報の内容
 内容の理解のしやすさ
 知りたい内容の有無

判定委員打合せコメントの内容・発表
 内容の理解のしやすさ
 知りたい内容の有無
 入手までの時間

東海地震情報に関する解説や支援
 気象台の解説内容の専門性
 気象台の解説のわかりやすさ
 気象台との連携
 気象台職員の対応

評価項目 (平成 13 年度)

解説情報
 内容の理解のしやすさ
 知りたい内容の有無
 発表のタイミング
 入手までの時間

判定会委員打合せコメント
 内容の理解のしやすさ
 知りたい内容の有無
 入手までの時間

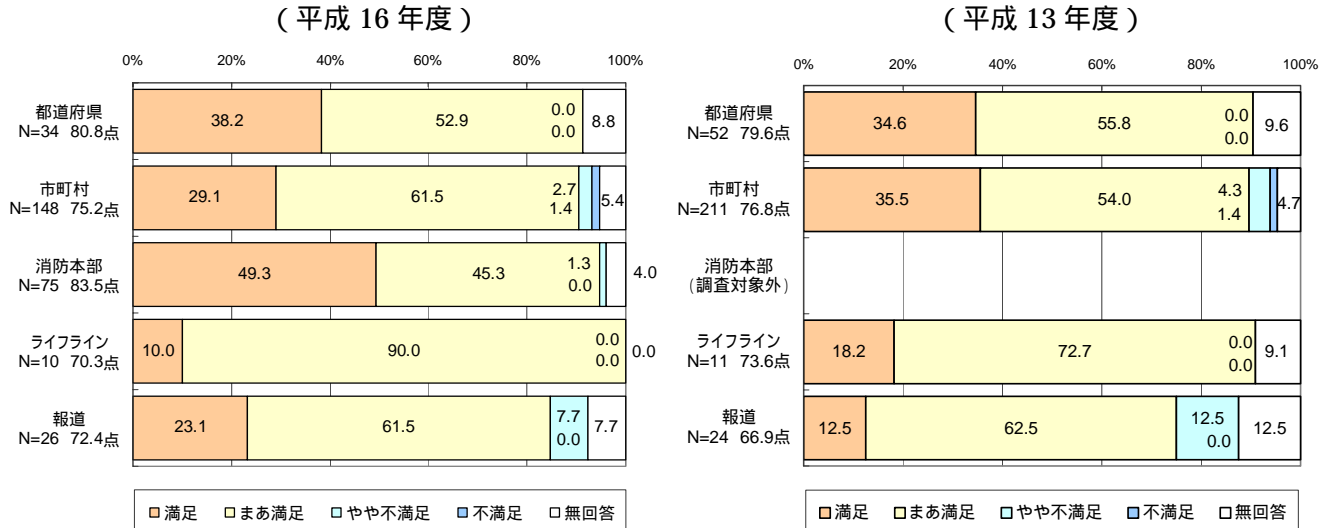
(共通)
 気象台の解説内容の専門性
 気象台の解説のわかりやすさ
 気象台との連携
 気象台職員の対応

- 東海地震に関連する情報に対する改善要求度の大きい項目としては、都道府県で と 、ライフラインで が高くなっている。また、報道では ~ の改善要求が高くなっている。

(6) 火山情報の満足度

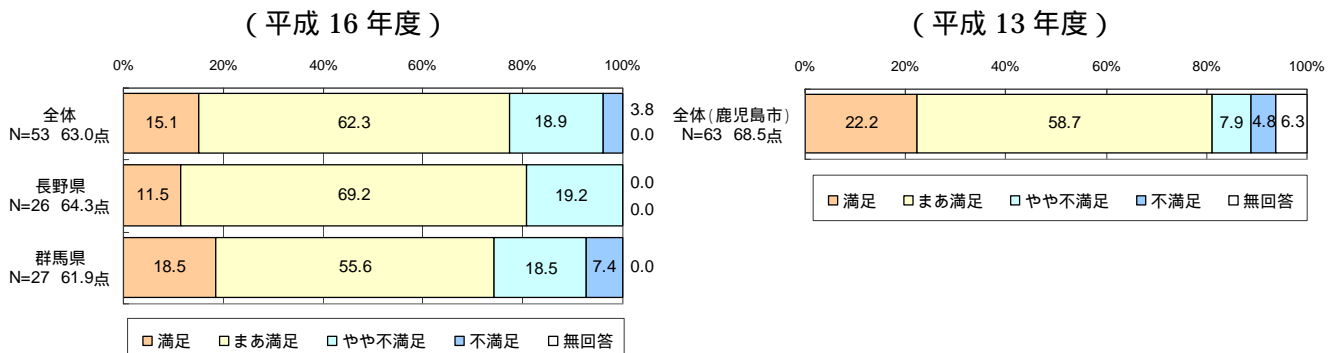
ア 火山情報の総合満足度

火山情報の総合満足度(防災関係機関)



- ・ 利用者の火山情報の総合満足度は、都道府県、市町村、消防本部、ライフラインの満足計が90%以上、報道では85%と、全体として高い満足度を示している。特に、ライフラインでは満足計が100%となる。
- ・ 前回調査と比べると、各利用者の満足度は大きな差はみられない。

火山情報の総合満足度(住民)

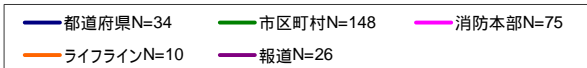
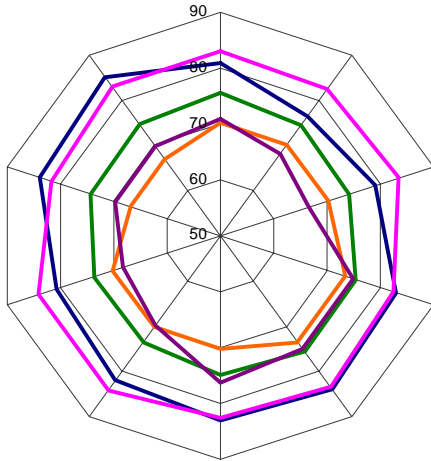


- ・ 住民の総合満足度は、全体の満足度計が77%と、他の情報等に比べてやや低い満足度を示している。

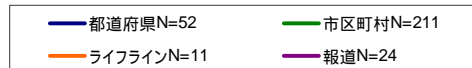
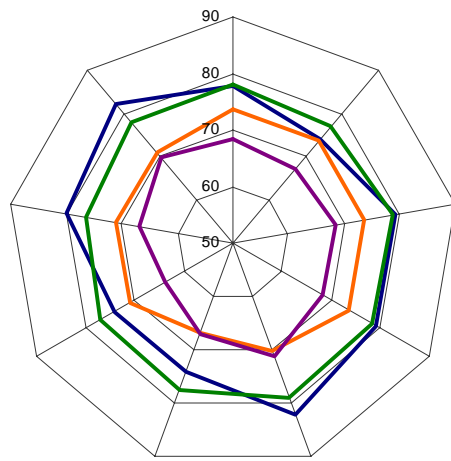
イ 火山情報の評価項目ごとの満足度・重視度

火山情報に対する評価項目ごとの満足度(防災関係機関)

(平成 16 年度)



(平成 13 年度)



評価項目(平成 16 年度)

火山活動の観測・分析内容 内容の理解のしやすさ 火山活動度レベルによる活動状況表現	発表(入手)のタイミング 発表の頻度 入手手段	気象台等の解説内容の専門性 気象台等の解説のわかりやすさ 気象台等との連携 気象台等の職員の対応
---	-------------------------------	---

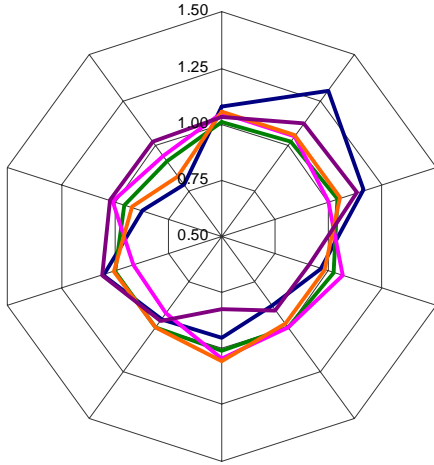
評価項目(平成 13 年度)

火山活動の観測・分析内容 内容の理解のしやすさ	発表(入手)のタイミング 発表の頻度 入手手段	気象台等の解説内容の専門性 気象台等の解説のわかりやすさ 気象台等との連携 気象台等の職員の対応
----------------------------	-------------------------------	---

- ・ 火山情報に対する満足度(評価点)の全般傾向は、消防本部、都道府県で高く、ライフライン、報道で低い。
- ・ 前回調査結果と比較すると、都道府県における評価が高くなっている一方、市区町村では評価が概ね落ち込んでいる。

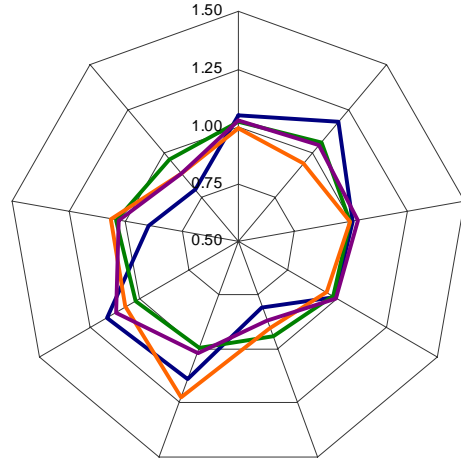
火山情報に対する評価項目ごとの改善要求度(防災関係機関)

(平成 16 年度)



都道府県N=34 市区町村N=148 消防本部N=75
ライフラインN=10 報道N=26

(平成 13 年度)



都道府県N=52 市区町村N=211
ライフラインN=11 報道N=24

評価項目(平成 16 年度)

火山活動の観測・分析内容	発表(入手)のタイミング	気象台等の解説内容の専門性
内容の理解のしやすさ	発表の頻度	気象台等の解説のわかりやすさ
火山活動度レベルによる活動状況表現	入手手段	気象台等との連携
		気象台等の職員の対応

評価項目(平成 13 年度)

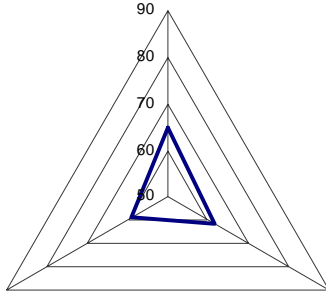
火山活動の観測・分析内容	発表(入手)のタイミング	気象台等の解説内容の専門性
内容の理解のしやすさ	発表の頻度	気象台等の解説のわかりやすさ
	入手手段	気象台等との連携
		気象台等の職員の対応

- 火山情報に対する改善要求度が大きい項目は、都道府県でが目立っており、前回調査と同じ傾向が見られる。

火山情報に対する評価項目ごとの満足度(住民)

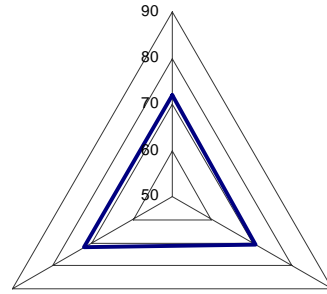
(平成 16 年度)

住民 N=53



(平成 13 年度)

住民 N=63



評価項目

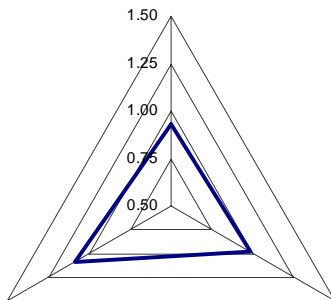
火山活動の観測・分析内容	内容の理解のしやすさ	火山情報の伝えられ方(手段)
--------------	------------	----------------

- 火山情報に対する住民の満足度(評価点)は、前回調査結果(前回は鹿児島市)と比べると、全ての評価項目で、10点程度満足度が低くなっている。

火山情報に対する評価項目ごとの改善要求度(住民)

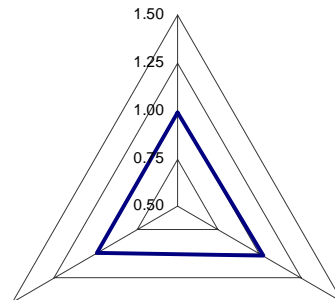
(平成 16 年度)

住民 N=53



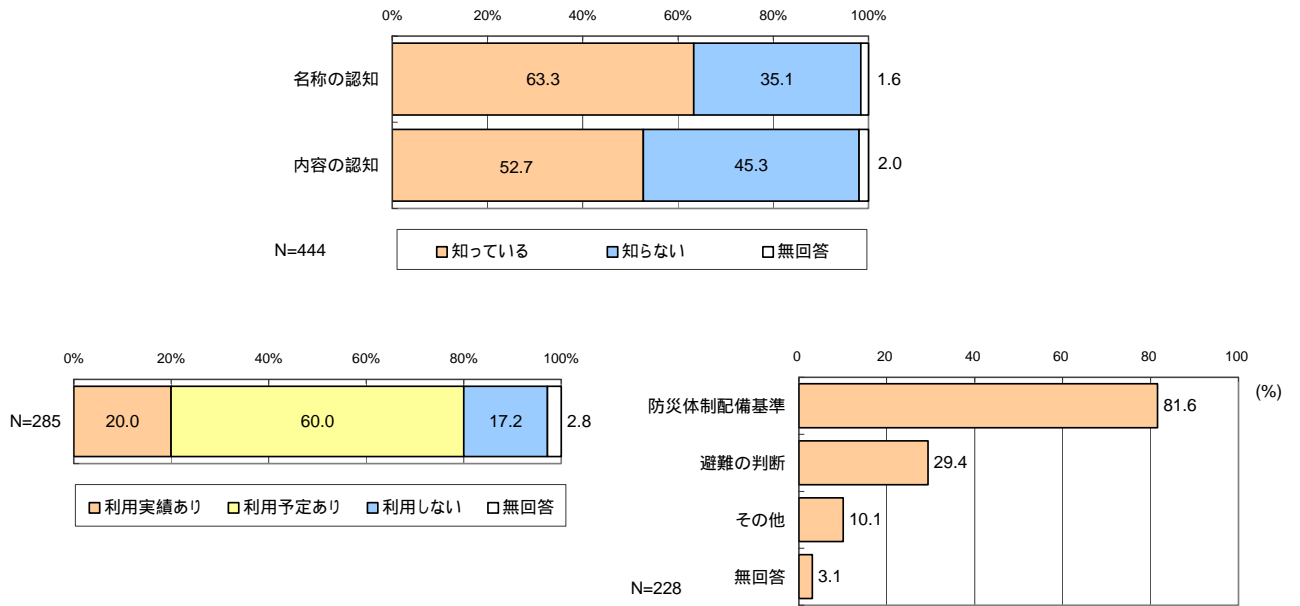
(平成 13 年度)

住民 N=63



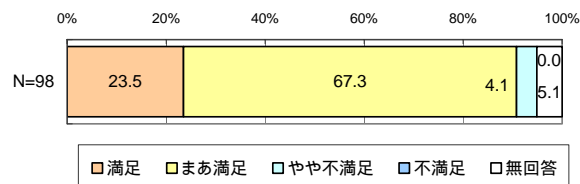
- 火山情報に対する住民の改善要求度は、前回調査結果(鹿児島市)と同じ傾向を示しているが、(火山情報の伝えられ方(手段))の項目で、鹿児島市より改善要求度が若干高い。

火山活動度レベルの認知度、利用実績、利用目的
(防災関係機関)



- 火山活動度レベルについての認知度を“名称”と“内容”にわけて質問したところ、“名称”の認知度は 63%、“内容”の認知度は 53%となっている。
- また、火山活動度レベルの利用実績については、「利用予定あり」が 60%を占め最も多くなっている。なお、「利用しない」は 17%を占めている。
- 火山活動度レベルの利用目的を見ると、「防災体制整備基準」が 82%を占める。「避難の判断」は 29%となっている。

火山活動度レベル導入による分かりやすさ
(防災関係機関)

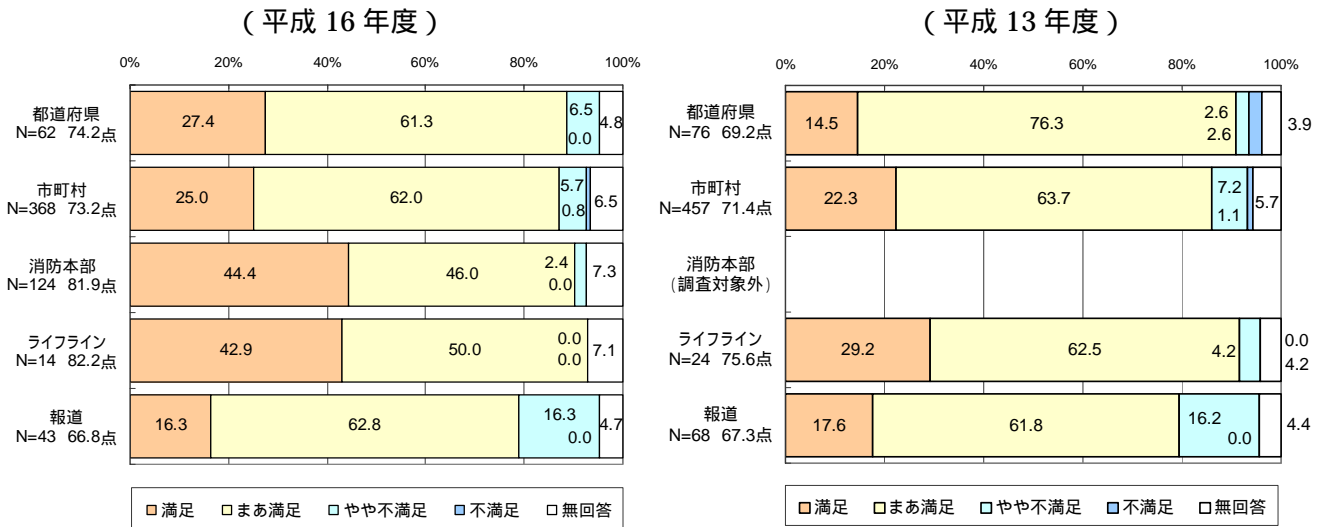


- 火山活動度レベルの導入によるわかりやすさについては、満足度が非常に高い。「まあ満足」が 67%を占め最も多いが、「満足」を合計すると、9割以上が満足となっている。

(7) 気象統計情報の満足度

ア 気象観測統計の満足度

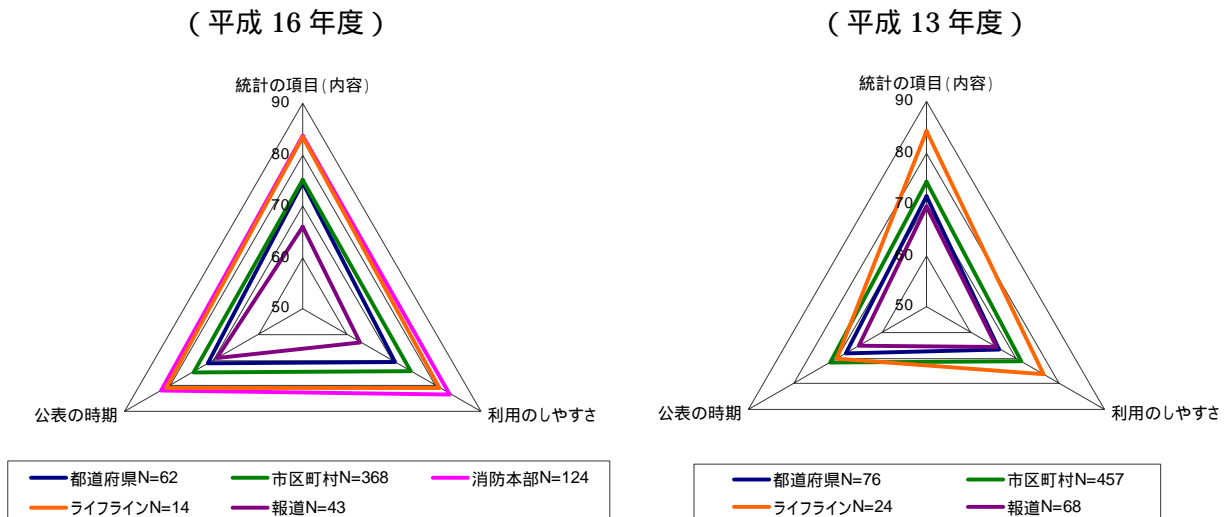
気象観測統計の総合満足度(防災関係機関)



- ・ 利用者の気象統計情報の総合満足度は、都道府県、市町村、消防本部、ライフラインの満足計は 87～93%と高い満足度を示しているが、特に、消防本部とライフラインは「満足」がともに 4 割を超えており、満足している団体が多いことが分かる。なお、報道では 79%とやや低い満足度であった。
- ・ 前回調査と比べると、各利用者とも満足計には大きな差はみられないが、都道府県、ライフラインで「満足」が増加し、満足度が高くなっている。

イ 気象観測統計の評価項目ごとの満足度・重視度

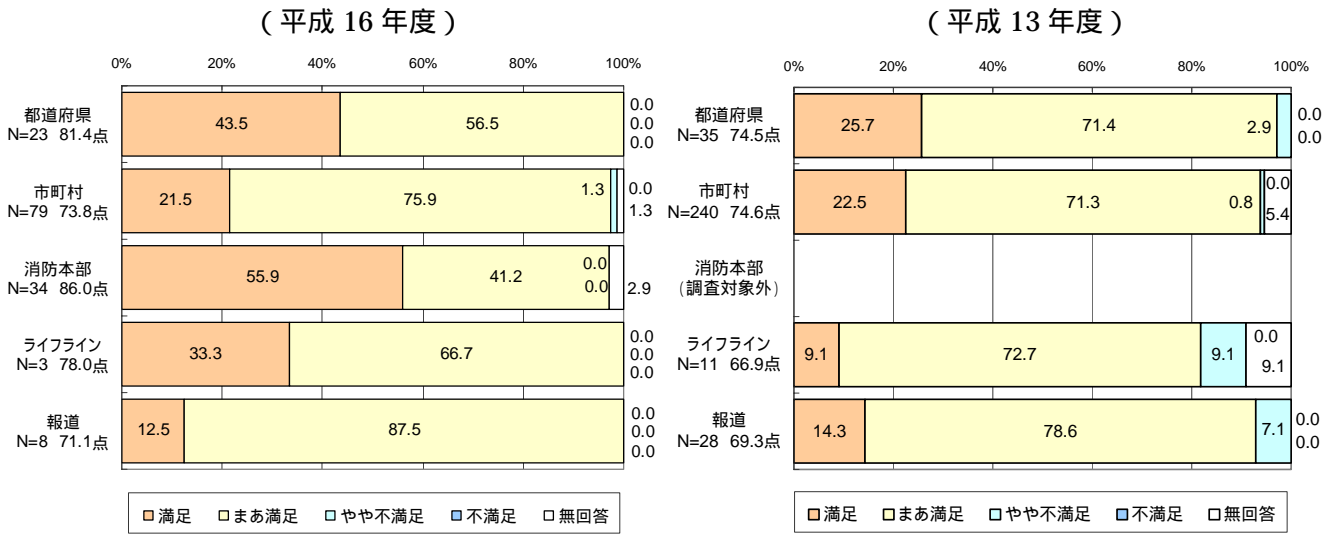
気象観測統計の満足度(評価点)(防災関係機関)



- ・ 気象観測統計の満足度(評価点)は、消防本部、ライフラインでは全項目で非常に高く、次いで都道府県、市区町村も高い満足を得られている。これらに比べ、報道では全般的に低く、特に利用のしやすさの低さが目立つ。
- ・ 前回調査結果と比較すると、ライフラインにおける公表の時期に対する満足度の増加が目立つ。

イ 気象災害統計の満足度

気象災害統計の満足度(防災関係機関)



- ・ 利用者の気象統計情報の総合満足度は、各利用者とも満足計は 9 割以上となっており、高い満足度を示している。特に、消防本部では「満足」が 56%を占めている。
- ・ 前回調査と比べると、都道府県とライフラインにおいて満足度の増加が目立っており、ライフラインでは評価点で 11 ポイント、「満足」で 24 ポイント増加している。